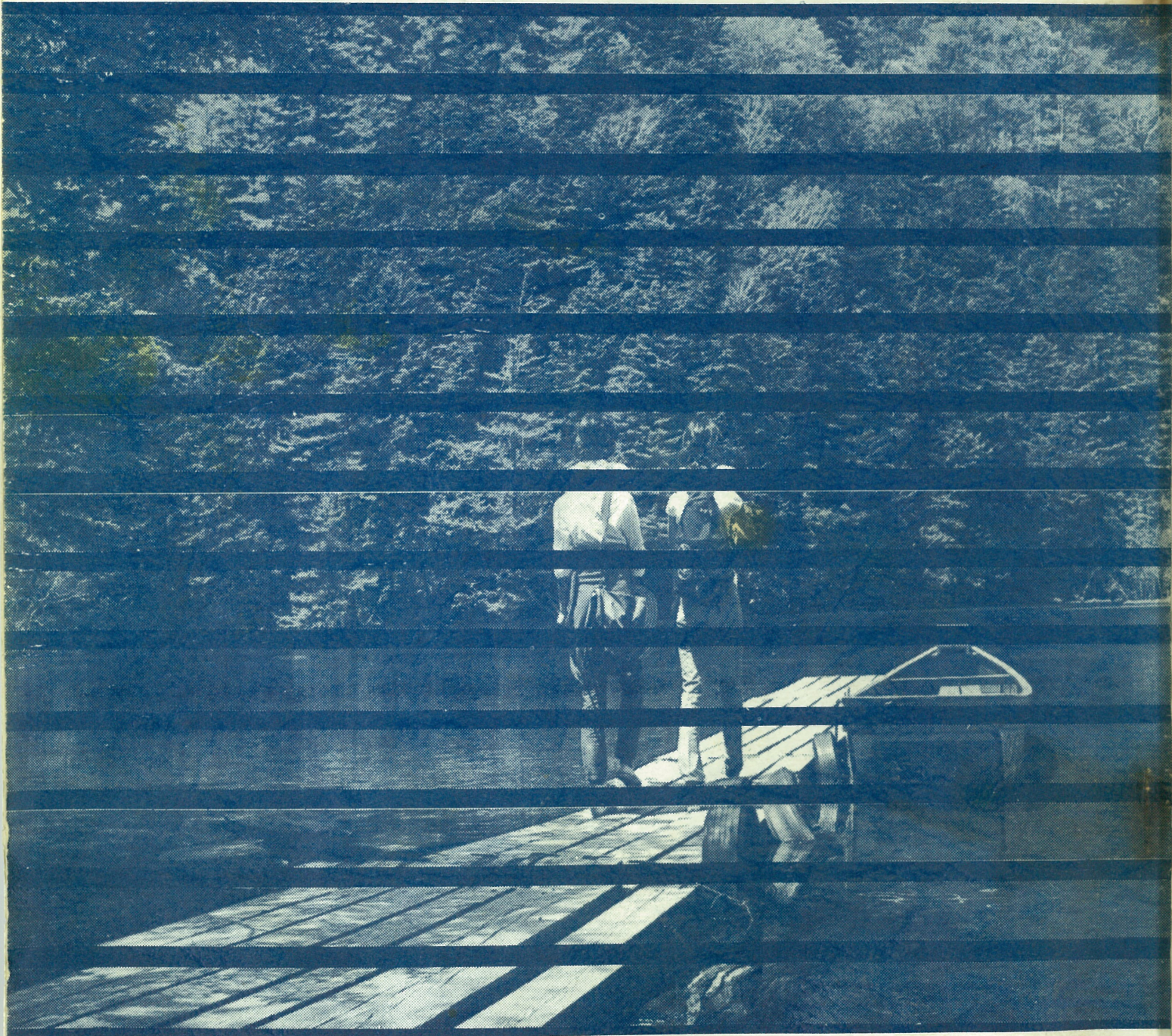


漕魂

第九号



1984年

長崎大学医学部漕艇部



昭和58年8月 全日本学生選手権(於戸田)

目次

巻頭言

一九八三年の記……………部長 高久 功…………… 1

寄稿

ごあいさつ……………OB会会長 村上文也…………… 2

長崎寄港の船 思い出すまま……………尾崎 正若…………… 2

昭和58年度大会成績………………………… 5

卒業にあたり

Y O U……………今里 雅之…………… 10

ボート部の皆さんへ……………小林 誠博…………… 10

雑感……………平野 友久…………… 10

部員雑感

フランス・軍隊・ジョゼフィーヌ……………日高 真…………… 12

雑感……………高須 勝也…………… 12

主将雑感……………中山 大介…………… 13

「いろいろあるのね」……………中里 貴浩…………… 15

気分は……………(生きていてもいいですか)青木 幹弘…………… 16

「燃えました 燃えます」……………石井 久敬…………… 18

ボート部の時代なのだ……………岡野 邦彦…………… 20

期待はずれ……………金色 正広…………… 29

「気くばりのすすめ?!」……………朝長 道生…………… 29

戸田遠征記……………中島 寅彦…………… 36

ボート部に入って……………天野 秀明…………… 41

自動二輪のすすめ……………白藤 智之…………… "

お好み焼き……………寺尾 保信…………… 43

大相撲……………中村 晋…………… 44

独りよがり……………山本 太郎…………… 46

ボクの愛した船……………吉川 公明…………… 47

昭和58年度行事結果………………………… 49

昭和58年度会計報告………………………… 50

昭和59年度年間計画………………………… 51

長崎大学医学部漕艇部OB会会則………………………… 52

琵琶湖周航の歌………………………… 53

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿………………………… 54

贊助会員名簿………………………… 55

一般会員名簿………………………… 57

現役部員名簿………………………… 63

編集後記………………………… 66

昭和82年11月10日(水) 第10回 卒業生同窓会 東京会場

会場：東京 有明コロシアム 19時00分開演

司会：佐々木 隆 進行：佐々木 隆

祝辞：佐々木 隆 祝辞：佐々木 隆

講演：佐々木 隆 講演：佐々木 隆

表彰：佐々木 隆 表彰：佐々木 隆

懇話：佐々木 隆 懇話：佐々木 隆

閉会：佐々木 隆 閉会：佐々木 隆

主催：同窓会 後援：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

協賛：同窓会 協賛：同窓会

一九八三年の記

漕艇部部长 高 久 功

今年のがボート部の成績は、残念ながらあまり振わなかったよう
で残念です。

いろいろな難しい問題をかゝえて、学生諸君は、よくやってくれて
いるだけに、口惜しい次第です。

新艇を購入し、九州内は勿論戸田迄漕したスケジュールにも問題
があるのかも知れないが、今年は大変な財政的なピンチであつたよう
です。よき相談役であつた丹羽助教授が留学されたことも痛手で、時
々顔を見る日高君の、悲壮な顔になりました。幸い一外科の田川
君が相談にのってくれて、何とか片がついたようで、嬉しく思ってい
ます。

学生時代のスポーツは、若さを燃焼させるものであり、その故にす
がすがしいものを保っているものですが、やはり下手よりは上手の方
がよく、成績のよい方がよいのは当然でしょう。わがボート部も、単
なるスポーツ愛好クラブでなく、わが医学部を代表する対校選手とし
ての性格を強く現わしてほしいものです。

今年はどうとう諸君のクルーを一度も見ずにすごしましたが、どう
も結論的に、ボート以前という所が成っているのではないのでしょうか。
多忙な学業の隙間をぬつての練習なので無理は云えないのですが、一

合理的な基礎体力、特にマラソンのでなく、中距離的な心肺機能の訓
が、必要と考えます。三、オールを合せることと水中一発、艇上で最
も基本的なこと、どんなピッチの時でもという事は、とても難しい事
ですが、練習によるしかありません。水中でオールが合うことがより
艇速をうる基本です。身体の動きよりも水中のオールが、わが国のボ
ートが観賞用のものだと批判もこゝにあります。オールが合うため
には、水中の速度、フィニッシュが合わなければなりません。漕法と
は、いかにして、早い水中速度を出せるかを問題としたものですが、
わがクルーは未だ漕法以前かも知れません。ライトパドリングの時
でも水中は全力をもって引くように心掛けるべきでしょう。三練習は
一段上を、私の古い経験ですが、ピッチ三〇で練習をつゞけて居り一
定の限界に達した時、三十五にあげた練習をして、また三十にもど
ば、前に比べてはるかに余裕をもって漕ぐことが出来ました。レース
の距離の予想のピッチより一段上の練習をつむことが必要と思うわけ
です。

しかしわがクルーの場合、まずキャッチだけでも、四本のオールが
よく合うことを、第一の目標とすべきではないでしょうか。

最近の東北大学ボート部の後援会法—函南会会報—によると、部員約
六十名、他コーチ等三十名の同部で、年間の後援会費が約七百万円だ
そうです。他の諸校と比して多いのか少ないのかわからないし、この
他外国遠征等は別に募金されるのだが、大体一人あたり十万円位の
後援が必要と思われる。わが部においても、この程度を目標とした後
援会の活動が必要なのではないでしょうか。

三月はじめから、入院中で、原稿が遅れ編輯の金色君に迷惑をかけ

たことを、御詫びしつゝ筆をおく。

△寄稿▽

ごあいさつ

OB会々長 村上 文也

このたび青木名誉教授のあとをうけて長大医学部漕艇部OB会長をお引受けすることになりましたが、責任の重大さを痛感して居ります。

今後の皆様方の御支援を心からお願ひ申し上げます。

長大医学部漕艇部も戦後再出発してから、早くも十年を越え、部長高久教授の御指導の下で先輩や現役の方々の御努力により、実績も年々上昇機運にあることは嬉しい限りです。

OBの方々も全国各地で中堅医師として活躍されて居られますが、御多忙な中を母校の漕艇部のために物心両面に亘って絶大な御援助を頂き感謝に堪えません。

漕艇部の目指すところは、勿論各種のレースで好成績をあげることにあると思いますが、部誌「漕魂」の名のように、練習、合宿を通じて人格の形成をはかるのは更に大切だと存じます。

これからも部員、OBが一体となって漕艇部の発展を期して行きたいと思ひます。

(五九・二・二九)

長崎寄港の船想い出すまゝ

第二薬理教授 尾崎 正 若

はやくも私が長崎の地に来て十年の才月が流れた。前任地の名古屋は当地に比し都会で、東京から新幹線は通じ、地下鉄、私鉄の便も良く、公共施設や、大学の数も多い。比較するとかなりの違いがあるが、山も河もなく、殺風景な街でコンクリートの建物、舗装が何所までも続く故に、「白い街」の別名がある位である。

それにひきかえ長崎は稲佐山、岩屋山が近くに見え、フェリーが発着する港があつて、河こそ無いが澄み切った空に、山の緑があたりにせまり、自然には恵まれた環境である。併し、道は狭く広々とした所に住み度いとの意欲にかられるのも否めない昨今である。

さて、話はそれだが、ボート部のOBで東京女子医大外科にいる田中精一君から数年前の初夏の候電話をもらった。「先生、今度僕、商船大学の練習船海王丸のシブドクターとして、ハワイの遠洋航海に行くことになりました。ついでには、小外科の練習の為、大阪の病院に教週間滞在しますが、この期間中に海王丸が神戸港に寄港しますので、船の好きな先生、丹羽さんとも一緒に夏休み少々遊びに来ませんか」と云うのである。嬉しく思い、神戸におもむいたことは云うまでもない。田中君と落ち会い、船に行き、船長に紹介され、船内を案内された。医務室も見学し、スナップ写真の何枚かも撮つて、長崎に帰つた。数日後に写真が出来たので、それを小さなアルバムにはつて

運輸省気付で海王丸の船長と田中君に航空便に託して送った。

晴海埠頭を既に出港した帆船海王丸は太平洋上にゆつくりとホノルル目指して訓練航海中のことであつたらう。送った air mail は寄港地ホノルルに先まわりして届いた筈であつた。

約一ヶ月も経つた頃船長と田中君からそれぞれお礼の絵はがきが来た。そんな事があつてから何ヶ月かが過ぎて、寒さも加わつた冬の或る日、聞き馴れない声の電話を教室に受けた。「私、日本丸の船長、原田です。本船只今下関に寄港中ですが、明、夕刻には長崎に着く予定です。海王の船長から長崎に行つたら是非田中先生と親しい教室の先生方に会う様に申しつかつて来ましたので、明日午後六時本船を長崎港に訪ねて来て下さい」とのことであつた。後で解つたが、彼は船長室から直接のケーブルを通じた電話であつた。凄く嬉しかった。教室の菅原、丹羽君らを誘い日本丸を訪ねた。船では早速と船長室に案内された。

船長は「ようこそ、どうぞ、どうぞ」と云つて、機関長、一等航海士、事務長らに紹介された。色々と船の話に花が咲いた。田中先生は学生らに、親しまれ、良い先生だとの海王丸の船長からの伝言もあつた。皆、海の男らしく、きびきびとしていて、さっぱりした性格の面持、気持ち良かった。やがてビール、ウイスキーが運ばれ、船長の応接室で酒宴が始まつて大変恐縮した。彼らの飲み方のピッチは速い。水割りが飲みほされると、直ぐお盆がすつと出され、すゝめられるまゝに何杯かおかわりをしてしまい、皆、適当に出来上つてしまつた。

丹羽君が私に「先生、こんなに私達に馳走に許りなつていて良いですか、若し良かったら街の何所かで少しお礼のお返しをしておいては」

と気をもみ始めたのである。

併し、船長さん達、上陸するかなあ、初対面ではあるしするが、兎に角聞いて見ることにしよう、と云うことになつた。そこで「船長大変楽しくご馳走にもなりましたが、又、この次何時お目に掛れるかとも思いますし、私達少し長崎の街をご案内し度いのですがいかゞでしょう？」と、尋ねてみた。船長は即座に「わあ、よろしいのですようか。早速服を着替えます。少々お待ち下さい。機関長、事務長、行こう」とご快諾である。かくて二次会の運びとなつた。愉快な談笑が暫し又続いた。深夜となり、時の経つのも暫し忘れ勝ちだつた。名残りを惜しんで、港で別れた。

彼等とはその後、年賀状を交す間柄となり、今年の賀状には新日本丸の進水が待たれる、とあつた。

日本丸の他長崎に寄港した船で印象深いのにクイーンエリザベスII世がある。船から写真を撮つた。オーストリア、ソ連からの観光船や、客船のコロンブス号、最近はまだ大阪での帆船パレードに参加の後、種子島を経て、ゆかりの長崎に九日間も寄港したポルトガルの帆船サグレス号がある。縁あつて、軍医さんと親しく会う機会に恵まれ、彼は将来眼科医を目指すと云うので、高久教授に紹介した。先生も彼を歓迎され教室内を案内して下さつて、大変喜ばれた。船上から花束を振り振り見送る我々に別れを告げた光景は未だに眼底に残る。何でもリスボンに帰りつくのは約半年を必要とし、今年の4月になると聞いた。早速覚えたらしい日本語をローマ字で、「NAGASAKI NO MINA SAN NO KOTO WA, ISSHO WASURE MASEN」

とクリスマスカードをよこした。

港の長崎にも「ロマン」がある。船、そして海の男達との出会い、私の生涯で楽しい思い出の一頁になるかも知れない。又楽しい船が何時か来ることだろう。夢はもう一度と云い度い。

寄港した船の、想い出すまゝとりとめもないことになってしまったが、稿の終りに長崎の若人が大いに四海に雄飛することを希望してやまない。

長崎二島馬日本

△昭和58年度大会成績▽

○九州山口医科学生体育大会

試合日 昭和58年4月29日

場所 唐津市松浦川漕艇場

クルー

Aクルー

C金色

B中里

2中島

3矢野

S中山

Bクルー

C日高

B高須

2朝長

3石井

S岡野

結果

対抗

(予選)

| | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 熊大A | 4:12:6 | 宮医大 | 4:15:9 |
| 熊大B | 4:30:0 | 長大 | 4:04:2 |
| 宮医大 | 4:40:2 | 山大 | 4:17:3 |
| 長大 | 4:16:5 | 福大 | 4:15:7 |
| | | 佐医大 | 4:15:8 |
| | | 熊大 | 4:03:7 |

(決勝)

| | |
|-----|--------|
| 熊大 | 4:09:1 |
| 宮医大 | 4:21:4 |
| 山大 | 4:17:2 |
| 長大 | 4:01:9 |

○九州朝日レガッタ

試合日 58年5月21・22日

場所 福岡県遠賀郡遠賀川漕艇場一〇〇〇mコース

種目 シェルフォア(出漕 16クルー) A・Bクルー

ナックルフォア(出漕 23クルー) Cクルー

クルー

Aクルー

C金色

S中山

3矢野

2中島

B中里

Bクルー

C日高

S岡野

3石井

2朝長

B高須

Cクルー

C天野

S山本

3白藤

2中村

B寺尾

結果

対抗

タイム

Aクルー

Bクルー

Cクルー

準決勝進出

予選落ち

予選落ち

シェルフォア

(予選)

| | | |
|-------|--------|---|
| 長大医A | 4'01"8 | ① |
| 熊大医 | 4'02"4 | ② |
| 熊商大 | 4'13"6 | 3 |
| 九大 | 4'19"5 | 4 |
| 新日鉄A | 4'58"0 | ① |
| 熊商大附高 | 4'08"1 | ② |
| 長大医B | 4'26"9 | 3 |
| 熊工大 | 4'42"8 | 4 |

(敗復)

| | | |
|------|--------|---|
| 長大B | 4'27"3 | 4 |
| 長大医B | 4'18"9 | 3 |
| 西南大B | 4'14"6 | ② |
| 熊商大 | 4'09"8 | ① |

(準決勝)

| | | |
|------|--------|---|
| 長大医A | 3'58"4 | ① |
| 新日鉄B | 3'58"0 | 2 |
| 西南大B | 4'14"8 | 3 |

試合経過

Aクルー予選

スタートでバランスが良くとびだし、コンスタントにはいる時点で1/3リード、その後300m、500m附近の足げりで1艇身リード、500m附近で熊医がスパートを入れ、せまってきたがこちらもスパートを入れ1/3差でゴール。

Aクルー準決

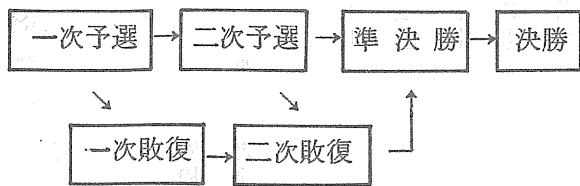
スタート・ローイングで新日鉄に先行されたが、足げりでせまり500m通過後スパートを入れ一時はトップにたつたが、ゴール直前、新日鉄にかわされて今年も決勝にはいけなかった。

○西日本医科学学生総合体育大会

試合日 昭和58年8月6・7日

場所 浜松市佐鳴湖

予選から決勝までのルート



出漕 14クルー
入漕 33クルー

- | | | | |
|------|------|------|------------|
| Aクルー | 1 金色 | Bクルー | 1 矢次 |
| Bクルー | 2 中里 | Cクルー | 1 矢次・日高・中里 |
| Cクルー | 1 中山 | Dクルー | 1 矢次 |
| Dクルー | 1 矢野 | | |
| | 2 中島 | | |
| | 3 石井 | | |
| | 2 朝長 | | |
| | B 高須 | | |
| | C 矢次 | | |
| | S 岡野 | | |
| | 3 天野 | | |
| | 2 日高 | | |
| | B 金色 | | |
| | S 吉川 | | |
| | 3 白藤 | | |
| | 2 中村 | | |
| | B 寺尾 | | |
| | S 山本 | | |

試合経過

A crew (シェル)

- [予選]
- 京大B 3°34'00"
 - 滋医大B 3°42'56"
 - 長崎大A 3°51'38"
 - 鳥取大(海王) 3°43'08"

- [一次敗復]
- 熊本大 4°18'95"
 - 長崎大A 4°17'30"
 - 鳥取大(海王) 4°26'83"

- [二次敗復]
- 京大A 3°45'00"
 - 京府医大 4°04'45"
 - 浜医大 4°05'54"
 - 長崎大A 3°56'77"

- [準決勝]
- 京大B 3°57'53"
 - 岡山大(疾風) 4°09'28"
 - 熊本大 5°16'89"
 - 長崎大A 4°14'08"

B crew (シェル)

- [予選]
- 熊本大 (3) タイム不明
 - 滋医大A (2)
 - 長崎大B (4)
 - 京大A (1)

- [一次敗復]
- 長崎大B 4°34'62"
 - 鳥取大(海王) 4°24'75"
 - 浜松大 4°32'77"

C crew (ナックル)

- [予選]
- 滋医大B 4°07'87"
 - 浜医大A 4°27'50"
 - 長崎大A 4°20'35"
 - 広島大B 4°11'23"
 - 京大A 4°12'85"
 - 和医大B 5°00'00"

- [一次敗復]
- 長崎大A 4°54'22"
 - 大阪大A 4°45'86"
 - 鳥取大C 5°09'18"
 - 金沢医大A 5°26'30"
 - 福岡大B 5°15'10"

- [二次敗復]
- 宮医大B 4°28'41"
 - 和医大A 4°37'34"
 - 宮医大A 4°24'16"
 - 熊本大A 4°30'10"
 - 長崎大A 4°31'73"
 - 鳥取大D 4°39'39"

D crew (ナックル)

| 〔予選〕 | | 〔二次予選〕 | |
|--------|---|--------|-----|
| ○長崎大 | B | 4° 44' | 60" |
| ○岡山大大 | C | 4° 44' | 47" |
| ○宮医大大 | B | 4° 40' | 25" |
| ○金沢医大大 | B | 4° 57' | 05" |
| ○京大 | B | 4° 50' | 56" |
| 〔二次予選〕 | | 〔復敗〕 | |
| 熊本大大 | A | 4° 42' | 38" |
| 熊本大大 | C | 4° 37' | 58" |
| 熊広島大大 | A | 4° 35' | 83" |
| 熊長崎大大 | B | 4° 50' | 40" |
| 熊京大大 | A | 4° 41' | 09" |
| 熊岡大大 | A | 4° 49' | 22" |
| 〔二次復敗〕 | | 〔二次復敗〕 | |
| ○京大 | A | 4° 15' | 36" |
| ○大阪大大 | A | 4° 12' | 53" |
| ○広島大大 | C | 4° 28' | 16" |
| ○大阪大大 | B | 4° 37' | 40" |
| ○滋医大大 | A | 4° 31' | 96" |
| ○長崎大大 | B | 4° 43' | 76" |

シエルA 一次予選

スタートからパワーが全く感じられない。足蹴りを入れても艇速が伸びずなすすべもなくじわじわと引き離され最下位でゴール。

シエルA 一次敗復

3杯の2杯上がりレース。全員気合いを入れなおす。スタートから鳥取をとらえ、熊大とのレースとなる。ラストで熊大をとらえ一位で上がる。

シエルA 二次敗復

スタートより京大はとびだし半艇身ほど遅れて後を追う。その後、コンスタントでも差を広げられるが三位以下とも差があつたのでピッチは上げずにゴールする。

シエルA 準決勝

スタートで京大と熊大がとびだし、その後を岡山とほぼ並ぶ。300m付近で熊大の艇が故障、岡山をマークするが400m及び700mあたりでの足蹴りも及ばない。ラストでピッチを上げようとするが艇速がのらず一艇身ほどの差で負ける。

シエルB 一次予選

スタート後他3艇に一艇身遅れ、その後もじわじわと離され、900m通過時に他艇は既にゴール。2回入れた足蹴りも効果はなかつた。

シエルB 一次敗復

スタートから鳥取がとびだし終始トップ。浜松とは、300mで半艇身離されたが、500mで並び、700mで足蹴りを入れたが伸びず、半艇身離されそのままゴール。

ナックルA (Cクルー) 二次敗復

6杯の2杯上がりレース。スタートで、宮A、宮B、和Aに次ぎ、1と1/2艇身差で4番手。400mでは、宮A・宮Bとは1と1/2艇身差。和Aは落ちていったが熊Aと並ばれ、3位争い。450m、650mで足蹴り合戦となつたが、半艇身離され4位でゴール。

ナックルB (Dクルー) 一次予選

スタートが乱れ、宮B、岡Cに次ぎ3番手、600mでは宮Bに一艇身半、岡Cに一艇身離されていたが、800mで岡Cに並んだがラストが伸びずキャンパス差で3位。二次予選進出。

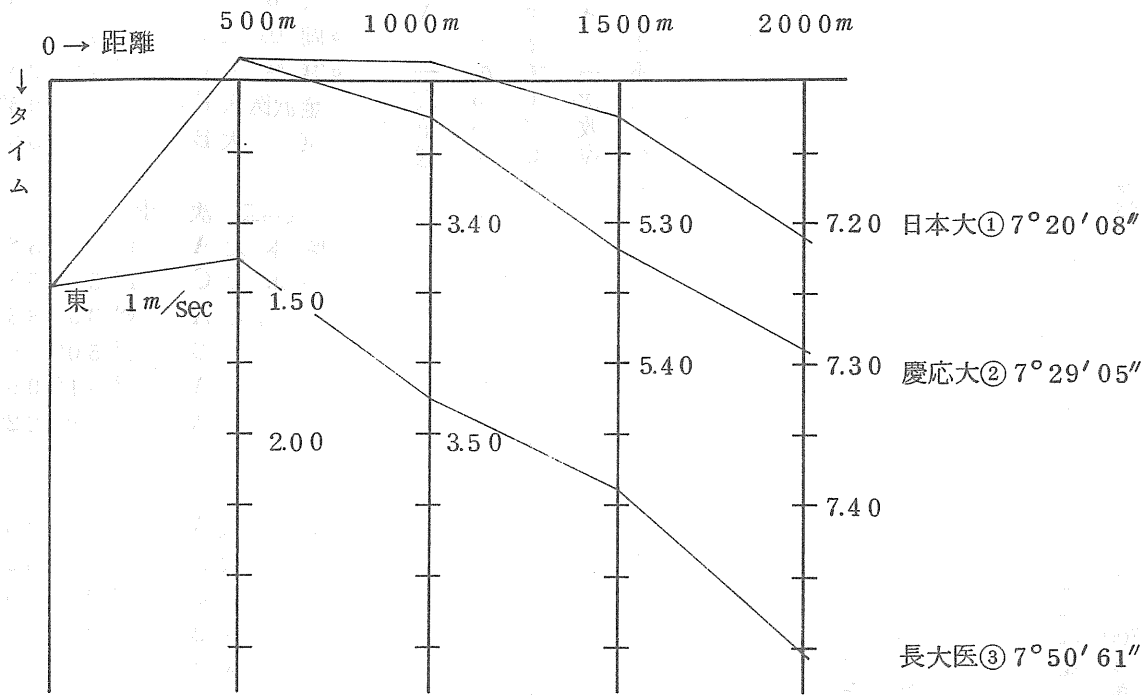
ナックルB 二次予選

スタートでは、熊A、熊Cがとび出し3位。500mで広Aに抜かれ、その後ストロークが短くなり、750mでは半艇身遅れていた京大Aにも抜かれ、そのままゴール。漕ぎに迫力がなかつた。

ナックルB 二次敗復

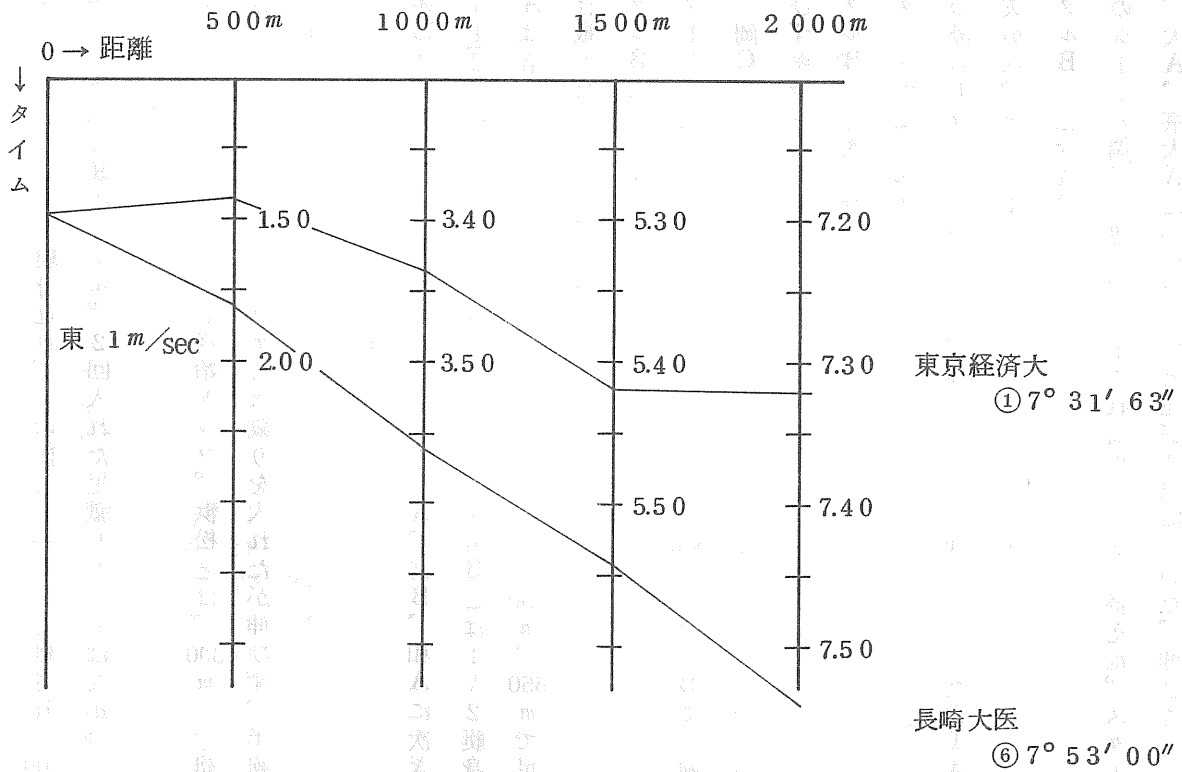
Sのシートの調子が悪く、レース直前にシートを替えた。スタート後、大A、京大Aにつづき広Cと並び3位についた。伸びていたが200mでSがシートをはずし、滋Aに抜かれた。その後も、800mまで

〔予 選〕



に3回シートをはずしコロがとれてしまった。最後は三人漕ぎでゴール。まともなレースではなかった。

〔敗 復〕



○全日本学生選手権競漕大会

試合日 昭和58年8月20日～23日
場所 戸田オリンピックコース

- 〔予選〕
- 日本大 ① 7°20'08"
 - 長大医 ③ 7°50'61"
 - 福島大 ④ 7°53'77"
 - 岩手医大 ⑤ 8°26'11"
 - 慶応大 ② 7°29'05"

- 〔敗復〕
- 長大医 ⑥ 7°53'20"
 - 大阪市大 ③ 7°46'07"
 - 東経大 ① 7°31'63"
 - 名工大 ② 7°33'60"
 - 東京大 ④ 7°46'51"
 - 大阪工大 ⑤ 7°48'12"

44クルー出漕

(注) 予選は1位のみ通過
敗復は1位・2位が通過

準決勝へ

試合経過
予選

二千mという距離を考えピッチをおとして大きく漕いでいく。まずまずのスタートからバランスもよく福島と並び日大を追う。後半に勝負をかけるが福島との差は縮らず1/4艇身ほどの差で3位でゴール。敗復にかける。

敗復

むだな力をぬいた漕法で前半は東大、大阪工大、大阪市大と共に三位を争うが、後半のスタミナ不足で次のスパートについて行けず六位でゴール。

準決勝進出を目標にがんばりましたが力及ばずといったところですがよい経験になりました。
むこうでは、田中精一先生、井上健一郎先生に大変お世話になりました。

○宮城杯

試合日 昭和58年10月23日
場所 大田市東浦湾

した。又、青木勇先生より適切なアドバイスをいただき勉強になりました。ありがとうございました。
ありがとうございました。

〔予選〕

- 佐工専A 4:19:4 ①
- 長大B 4:27:2 ②
- 長大医C 3
- 佐工専B 4:36:0 ②
- 長大医A 4:34:4 ①
- 園漕会B 3
- 漕友会A 4
- 佐工専C 3
- 園漕会A 4:16:6 ①
- 長大医B 4:20:8 ②
- 佐工専D 4:49:0 3
- 長大医A 4:24:1 ①
- 園漕会C 4:25:0 ②

〔準決勝〕

- 長大医A 4:16:8 ①
- 佐工専A 4:16:8 ①
- 長大B 4:15:8 ②
- 園漕会C 4:15:8 ②
- 園漕会A 4:15:8 ①
- 佐工専B 4:17:2 ②
- 長大A 4:17:2 ②
- 長大医B

△卒業にあたり▽

YOU

今 里 雅 之

卒業時の言葉はできるだけ、キザにきめよう。後輩諸君へ一言。

何かやりたい事があつたら、負の因子には目をつぶり、結果としての自分の心境の変化に期待して、実行してみる。

やつて後悔する度合は、やらずに悔いる不快感に勝る。

据え膳食わぬは男の恥。…イヤ、これは僕の信条ではございませんが。

(イヤー、今里さんて、口が軽いし、手が悪い。どうしたらそんなに軽薄になれるんですか。)

まず、やる、ぐにゅう。

(「ぐにゅう」って、アレをアレすることですか?)

そんな事云うより、まずやりやいいんだ。

まず、やる、グーニュー。

ボート部の皆さんへ

小 林 誠 博

長かった卒試も終わり、ほっと一息つくとともに、来たる国試に向けて、頑張らねばと考える今日この頃です。

現在は、学Ⅰ・学Ⅱの部員数が少なく、クラブの存続も、大変でしょうが、部員全員で協力して、より良いクラブにして行って下さい。最近、練習に顔を出していませんが、暇ができれば、見に行きます。

今年は、西医体優勝を目標にして下さい。

陰ながら、応援します。

それから、公衆衛生の実習に協力してくれた皆さん本当にありがとうございます。

おかげで、立派なレボートがかけました。

無事に、国試がすんだら、飲みにいきましょう。

雑 感

平 野 友 久

僕が初めてオールを握らせてもらったのは、教Ⅰの五月(あの頃は、雲仙と多良の二艇だったし、九山の直前で、新入生まで手が回らぬ状態であつた。)、新入生四名に、コックスを前原さん、更にその後、田川大先輩が鎮座して居られた。一漕ぎする度に、「ブレイドをよく見ろ、深すぎるぞ!」、「整調に合わせろ!」等々の怒号が聞かれたものだった。今まで、頭に浮かべて、ほそく微笑んでいるのは、僕だけではないだろうか。

僕は、諸先輩の様に体格に恵まれた方ではない。だから、他人に、「ボートを漕いでる。」と言うと、皆一様に信じられぬというか、こいつはバカか、という顔をされたものだ。でも、ボートは体格だけで

はないと思う。もちろん、体格が良い方が有利ではある。しかし、あの苦しい四分弱を乗り切るためには、精神力がなくてはだめだろう。レースの4S（スタート・スタミナ・スピリット・スパート）である。幾多のレースで、自分達より小柄クルーに負けたり、大柄なクルーが勝つたりするのである。今でも思い出すのは、僕が教Ⅱの時、九州朝日の前に学Ⅳクルーとよくレースをやった。ある日、学Ⅳクルーのバウに成松さんが入って漕いでいらっしやった。体調が良くなかったようで、一〇〇〇m漕いだ後、戻していらっしやった。その時、何か、ボートの恐さを見た気がした。と同時に、又ボートが好きになった。どれ程苦しくとも、オールから逃げ出せず、皆に遅れぬためには、くじけている自分に勝たねばならぬ。一〇〇〇m漕ぎ抜いた後は、もう口をききたくなく、体を動かしたくとも動けない、「完全燃焼」の状態を覚えてくれたのが、ボートではなからうか。今の教養生は、体格の良い方ばかりなので、更にスピリットがつけば、鬼に金棒では？と思うのは、小柄な僕の楽感だろうか？

霧島が購入されたのが、僕の教Ⅰの春合宿の時だった。霧島に続く新艇も入り、（霧島は今や、新艇とは言えぬが……。）更なるボート部の発展を願うばかりである。

フランス、軍隊、ジョゼフィーーン

学Ⅳ 日 高 真

これは1821年5月5日、ナポレオンの最期の言葉である。ナポレオンの生涯はなぜ多くの人を魅了させるのであろうか。平民から皇帝になった快男子だからか、軍事的天才ゆえか、毎日一八時間ぶつづけで執務した超人のためか、偉大なロマンチストだからか、それともセントヘレナで殉教者となったためか？ 彼ほど絢爛たるドラマを演じ、世界史を創った人間がいたであろうか。

いずれにせよ、非凡の天才である事はまちがいない。特に数学の天才であった。であるから合理性を尊重した。しかしまたロマンチストでもあった。数学者でもあり、芸術家でもあったのである。さらに、フランス革命という状況のゆえもあり、実行に移す事ができた。まさに風雲児であった。ヨーロッパの地図を書きかえ、歴史を創った。ヘーゲルがイェナでナポレオンを見て「馬上の世界精神」と言ったのも、まさに名言だと思う。

ところで話は変わるが、去年の四月福岡まで1927年作品アベル・ガンス監督の「ナポレオン」を見に行った。フランス・コッポラが前でオーケストラをふるという物である。ナポレオンの幼年時代から、1796年のイタリア侵攻までを描いている。やはり視覚聴覚に

訴えられると、感動はより大きくなる。福岡から長崎まで帰る間じゅう、耳にはラ・マルセイエーズが鳴り響き、頭の中では三色旗の下にフランス兵が行進していた。

多くの伝説をうんだナポレオンがたった二百年前に、悩み、愛し、戦っていたかと思うと何ともいえない気持ちを抱かざるを得ない。それにしても、歴史はなんと我々を感動させる事だろうか。

去年はポルト部について真面目な事を書いたので、今年は徒然なるままに書いてみました。もちろん、BGMはベートーベンの第3交響曲でした。

雑 感

学Ⅲ 高 須 勝 也

いつの間にか、上にだれもいなくなってしまう。学年だけは増えなくても、人間として、医学生として、ちっとも成長していないような気がする。生来のめんどろくさがり屋、事なかれ主義のため、面と向かって非難する人間がいなくなると、ついつい怠惰な方向へ流れようとする。近頃は、酒の付き合いも悪くなり、「さえん先輩になりよるなあ」と反省することしきりである。教Ⅱから学Ⅰにかけて、C↓B↓Aクルーへと出世街道を歩んでいた頃は、毎日すべてがポルト部中心に動いていた。頭の中もポルト部の事ばかりであった。この辺で、もう一度、気合いを入れ直して、最後のシーズンを、思い出多いものにしたと思う。今年、コックスをすることが多いと思うので、その方面の勉強をしなければならぬと思う。

秋に、新Aクルーになって、全く勝てない。しかも、岸から見ている、残念だったなあという負け負ではない。いかにも見劣りするRowingで負けている。教IIばかりで、経験が浅いのは仕方ないことだが、我ボート部の登り調子の時代を見てきた僕にとつては寂しい限りである。入部三年目は、精神的にも、肉体的にも、最も充実した時期と思うので、来シーズンに期待するとともに、僕たちも、クラブの練習計画、方針を真剣に考えなければならぬと思う。

最後に、今年度は、新入部員が六人入ってくれ、一人も欠けず、続けていることは、大変嬉しいことだ。一年生の話を聞いていると若かった頃の自分を思い出し、失ないかけた心を取り戻せるような気がする。今春も、一人でも多くの新入部員を獲得し、多勢の仲間と、汗を流したいものだ。

主将 雑感

学III(?) 中山 大介

部誌の原稿を書く季節がまためぐってきた。僕とボート部との関わりも相当長きに亘っていることを感じる。一年のときはわけもわからずバチャバチャと漕いでいた。二年になってシェル艇に乗り、いろいろと苦労していくうちに、ボートのおもしろさ、難しさに触れるようになった。ボートのおもしろさというのは艇が走ることにつきると思うが、そう簡単に艇は走ってくれないものである。とくにシェル艇の場合、少しでもいい加減な漕ぎをするとそれが敏感に艇のバランスに

影響し、ますます艇速が乗らない。やたらと疲れる。オールを投げ出したくなる。そこであきらめないでどうすればもっと楽に、たのしく強いオールが引けるようになるかという工夫を重ねるうちに、たまには艇が走ってくれるようになってくる。艇を格納するクルーの顔に笑顔が見られるようになってくる。漕ぐことが楽しく感じられるようになってくる。しかしここで安心してしまうとまた走らなくなる。このへんまで来るとある程度体力もつき、派手な欠陥漕ぎもなくなっているから走らない原因がなかなかわからない。ここでも無精をして責任を他におしついたりせず謙虚に自分の漕ぎを反省して改善に努めるのが良いオアズマンである。そうすれば艇も応えてくれるであろう。さてさらに学年が進むとマネージャーやキャプテンといった役職を任されるようになる。そうするとボートを漕ぐ以前のいろいろとやっかいな問題に悩まされるようになる。主なものは次の三つである。

- ・艇およびオールなどの設備すなわちお金の問題
- ・部員数およびクルー編成の問題
- ・練習量および練習内容の問題

最も難題なのはお金の問題である。医学部漕艇部はOBの先生方の寄付と現役部員の部費とを収入源にしている。その中でやりくりするのは非常に苦しい。火の車もいいところである。ボートを漕ぐためには艇やオールがいる。シェルフォア一杯二百二十万、オール一本五万二千円する。ボートとはやたらと金のかかるスポーツである。金はかかるが金がない。銭が空から降ってこんかいないつも思う。今シーズンは部員が二十名前後になる予定なので少なくともフォアが四杯欲

しい。しかしまともなのは二杯しかない。まだ新艇のローンが残っているし、オール一本満足に買えない状態では贅沢は言えない。ないものねだりをして仕方がない。OBの先生方にこれ以上御無理を申し上げるわけにはいかない。四年に一回新艇を買って頂けるだけでも有難いと思わなければならない。設備が限られていても練習法を工夫して効果を上げなければならない。愛艇の心を持ち、少しでも艇の寿命を伸ばしてやらなければならない。さらにOBの先生方が快よく御援助下さるよう連絡を密にとる必要がある。先生方、頑張りますのでどうぞ御寄付を宜しくお願い致します！

次に部員数及びクルー編成の問題について述べる。

理想的には部員数は五の倍数で、上級者と新人の混合クルーを組み合わせ、さらに経験あるコックスが操舵を担当することである。新人ばかりで漕ぐよりも、上級者に混じってオールを握る方が上達の早いことは明らかである。またコックスの能力が艇速に寄与するところ非常に大であつてコックスのかけ声ひとつでも艇速は大きく変化する。さらにコックスは漕手の士気を高め、練習の進行を司どり、ローイングにリズムを与え、漕手のブレードワークを監視しつつ適切な指示を与えなければならぬ。また常に最高の条件で漕げるよう艇を整備しておくのもコックスの重要な役目である。従つて頭脳明晰で俊敏で正確な判断力を持ち、漕艇について造詣の深い者をコックスとして選定しなければならぬ。

以上建前ばかりを述べたが現実にこういう理想の状態を得ることは難しい。事実部員数だけをとつても現在十四名で半端である。理想は理想として兎の片隅において臨機応変に対処していく他はない。

最後に練習量および練習内容について述べる。

ボートの練習には限りがなく、もつと強くもつと速くと欲が出てくると、とことん練習が重くなつてくる。度を越せば生活に圧迫がかかってくる。ボートを漕ぐことが負担として感じられてくる。一方ボートの楽しさというのはボートを走らせること以外にはなく、そのためにはある程度の練習の積み重ねが必要である。このへんの兼ね合いが難しく、練習が重すぎる、そこまでやる必要はない、とか、練習が軽すぎる、この位じゃ勝てない、といった不満の声が部員の間で絶えることがない。では具体的に練習量をどう決めるのか。昨年、一昨年は週四回でやつてきた。これだと練習がどうしても乗艇にかたよる。陸トレがおろそかになる。艇を進める原動力となる筋力・全身の筋肉や神経の調整力、心臓機能や肺の換気能などは陸トレによつてより効果的に鍛え得る。また、艇速にブレイキをかける様々な欠陥漕ぎは、その多くが基礎体力の不足に起因すると言われている。従つて陸トレを軽視するのはまことにもつたない。今シーズンには練習を週五回ないし六回とし、うち三回を乗艇、残りの二回ないし三回を陸トレにあてるようにしたい。

練習量が決まれば次はその中でいかにして最大限の効果をあげるか、すなわち練習内容の問題である。昨年度までの練習が計画性に乏しくいかにも姑息的で、おまけに非科学的であつたと若い部員から指摘があつた。この点については僕も多いに反省している。反省するばかりでは仕方がないので綿密な練習プログラムを考案しなければならない。しかしこれがなかなか面倒なのである。設備や人員に不足がなければルンルン気分て計画を立てられそうなのであるが、現実はその甘く

ない。艇やオールが不足しているので一つの艇を複数のクルーで共有することを考えなければならぬし、陸トレを重視するといってもバーベルその他の設備を充実させるためには金がいる。さらに練習プログラムというのは立てつ放しにするのではなくクルーの到達度をチェックしつつ刻々と変更していく必要があるが、コーチのいない我がクラブとしてはそれもなかなか難しい。いろいろと制約が多いのである。頭が痛い。と、弱音を吐くばかりでは能がないのもたしか。春合宿が始まる迄には僕なりにない知恵をしぼって練習計画を立てておきます。ボートを楽しむためには何かと壁が多いものではあるが、いろいろと知恵を出し合つてそれらをうまくかわし、こなし、のり切つて、皆でクラブを盛り上げていきましょう。

「いろいろあるのね」

学 III 中 里 貴 浩

最近忙しくて、みんなとも顔を合わせる事が少ないので、この場を借りてボートに関する私論を経験をもとに述べてみたい。

ボートは団体競技であるが由に個人の能力が非常に重要であること。

個人が、クルーの足を引っ張る可能性はあるが、クルーが非力な個人をかばうことはあまり期待できないのである。クルーに迷惑をかけないように、しっかりと練習してほしい。

。「整調に合わせて漕ぐ」ということについて。

練習中によく「ほら整調に合わせて」という注意が飛ぶと思うが、それを「何もかも整調に合わせておけば良い」と受け取ってはいけ

ない。

力漕の時は、キャッチとフィニッシュだけ整調に合わせて、ストロークの間は、(整調の蹴りなど無視して)とにかく全力で蹴って引くのが良い。

合わせて漕ぐつもりだと整調より少し弱めになることが多いからである。艇の方向を曲げてやろうと思うぐらいの元気で漕いでほしい。そうすれば、かえってバランスが取れ、艇速も伸びるだろう。整調は蹴りの強弱を察知しやすいポジションなので、疲れ易い整調を元気づける効果もある。

。コックスは御殿様ではないこと。

コックスは、漕手の能力を育て、レースにおいては、それを最大限に引き出すことに全身全霊を注ぐべきである。

そういう意味で、コックスは、体育評論家で、心理学者で、冷静な勝負師で、時には奉仕者でなければならない。

。静水でバランスが取れれば波の荒い所でも艇は進むが、この逆は成り立たないこと。

強く水をつかんでさえおけばよい、荒れた所よりも、もつとデリケートなコントロールが静水では必要だからである。たいていのレース場でゴール付近は静水だから、静水における完璧なバランスをもつと追求しなければならぬ。

。上級生は、下級生より、走るの速く、バーベルも挙げ、漕ぎもうまくて当たり前であること。

この事に関して、認識が極めて低いと言わざるを得ない。練習への取り組み方に問題がある。いつまでも「健康のため」のよ

うなランニングをしてはいけない。

最後に我がボート部の漕手に求められる最底の体力レベルを示してこの独断的な文章を終わりたい。

(このレベルを四人とも満たすクルーは、無風静水で3分50秒が切れるだろう)

- ① 国道往復のランニングで3分を切ること。
- ② タンツェン……80回連続
- ③ スクワット……90 kg
- ④ クリーン……50 kg
- ④ ベンチ・プル……70 kg
- ⑤ デッドリフト……90 kg

気分は……

(生きていてもいいですか)

学Ⅱ 青 木 幹 弘

プロローグ

ここにある男がいた。彼の名を仮にブラウンとしよう。実はこのブラウン、馬鹿だった。

第一章：ロングアゴ

ブラウンは、たいへん動物好きな少年だった。特に祖父の家には、犬猫をはじめ五、六種の動物がいた。彼はその猫をとててもかわいがっていた。ある日、彼は猫とこたつの中で遊んでいた。外では親たちが

必死になって行方不明(?)の彼を捜していた。彼は、暗くて狭い所が好きだった。現在の彼の性格は、ここらへんがベースになっているらしい。

彼が小学校に上がった、彼は学校で考え事をしていた。何かが変わった。母親が現われた。母親に何をしに来たのか尋ねた。彼女はブラウンのランドセルをかかえて呆れかえっていた。彼はランドセルを持たずに学校に来ていた。その類の事は、以後続発した。

ある朝、彼は校門の近くまで来て、ハタと立ち止まった。おかしい。彼の手にカバンは無く、その代わりに幾らかの小銭があった。彼はしばらく考えた後、引き返した。彼は朝食にするべき食パンを買いに出していたのだ。その朝、彼の家では全員が遅刻をした。彼が中学校の頃の話である。

まだ小学校に行っていない頃の事であろう。ブラウンは母と共に列車に乗っていた。そこで彼は、自分の向い側の席の見知らぬおばさんを見つめていた。そして、そのおばさんの目もとを指さし、覚えてたの言葉を発した。「ねえ、ねえ、あれカラスの足跡っていうとやろ？」彼の母親は席を移ることを余儀なくされた。ブラウンは、自分の犯した罪の重大さを知るよしもなかった。

それはまだ小学校の頃、彼は体育の時間の走り高跳びの練習をしていた。ふすまの所にひもをはり、それを跳び越していた。彼は跳び過ぎた。高く上がり過ぎて、ふすまの上側のミゾの所に、目一杯頭をなでもらってバツタリとうつ伏せに倒れた。「イ・タ・イ・」と思つて起き上がろうとした。その時に「これでもかー。」と言わんばかりに掛時計が背中につきささった。母と姉が異様な物音にかけつけた。

彼女等はブラウンを助け起こそうともせずバカ笑いでいた。それ以来、彼は自分が捨てて子ではないかと思ひ出した。彼は思った。「ボクの本当のお父さん、お母さん。早くボクを迎えに来て。」

ある夏の日の朝の事だった。ブラウンはプールに行くべく電車に乗った。自動扉が閉まった。彼は激痛を感じた。指をはさまれたのである。諏訪神社からほぼ公会堂のあたりまで、知らんぷりして電車は進んだ。彼の周りでは気付いた人々が、彼の手を引っぱったり車掌に知らせようとしていたが、満員のため思うように伝わらなかつた。彼は、浦上車庫事務所に連行され、事情聴取をされた。それから最寄りの病院で手厚い看護をうけ、おみやげに「銘菓 長崎物語」をもらつて、黒い高級車で家まで送つてもらつた。彼は、お菓子をもらつた嬉しさで、指の痛みはすぐにとれた。彼が中学二年の頃だつた。

第二章：シンプル・ライフ

ブラウンも何とか大学に入ることができた。かつて、動物園の飼育係になりたかつた彼は、その職業が大学卒でなければならぬと聞いて諦めたのだつた。彼の母は、獣医と飼育係を取り違えた様である。ともかく、彼はN大学M学部に入學したのである。

その春の事。クラスコンパの翌日、うなる頭をかかえて彼は家を出た。30mも行かないうちに、彼は自分のスポーツバックを見つけた。前夜、道の真中に置いて帰つたらしかつた。二次会で記憶のなくなつたブラウンは、その後、自分が何をしたか全く憶えてなかつた。スポーツバックをひろつて、彼は電車に乗つた。朝早い客の少ない電車の中で、彼はあげてしまった。彼は心の中で「ごめん。」と思ひながら、やはり知らんぷりを決め込んで電車を降りた。彼がスポーツバック

を置いていた場所について述べると、数年前、酔っぱらいのおじさんが、こけて溝にはまつて亡くなられた所であつた。また、かつてブラウンが口を開けて走つていて、ハエを飲み込んだ場所でもあつた。

ある日、彼は中通りを文字通り「ボケー。」として歩いてた。肩に看板が触れて落ちそうになつた。ブラウンは、それを受けとめようとして体勢を崩した。崩した先に、ハンコ入れがあつた。五十音順の名前別に何百個もハンコが入っているやつだつた。ポロポロと落ちるハンコ。集まる視線。原住民らしい子供たちが拾うのを手伝つくれた事も、なぐさめにはならなかつた。店の人に名前・住所・電話番号を控えられたが、損害請求がなかつたのは、不幸中の幸いであつた。

さて、大学といへば、サークル活動。彼はボート部に入った。その年の11月の大会。ブラウンは、コックスの「ラスト1本。」の声を聞いて、1本漕いで、漕ぎ止めた。ところが前の二人はまだ漕いでいた。「ラスト1本。」は「ラスト10本。」の間違いであつた。おかげで彼のクルーは予選落ちした。反省会で神妙にしていたら、思つていた程非難を浴びなかつた。彼は、自分の性格が皆に把握されているのだ、と思つた。

第三章：華麗なるドライビング・テクニク

さてブラウン。大学二年の夏、無事、普通免許を取得した。さらに一ヶ月後、車を購入。これまで読んでこられた方々は、彼が事故を起こす事を期待されるに違ひない。実際、彼の車が凸凹になるのに一ヶ月とはかからなかつた。但し、全て謝つて済ませたので、警察の世話にはならなかつた。彼は謝るのが得意だつた。

彼が北九州に行った時の事。ブラウンは、信号待ちをしていた。と

ころが、前の車がいままでたつても動かない。よく見ると、その車には人が乗っていないかった。よくよく考えると、信号までは、まだ40m程あった。

ある夕方。ブラウンは宝町付近の第二通行帯を走っていた。すると、彼は前方に、右折車らしい黄色い車を視認した。彼は、段々近づぐにつれて、それが右折車でないのに気付いた。車輪が一本なく、フロントがぐちゃぐちゃだった。「事故車だ。あ・あ・あ。」と思った時には、その車にピタリつけて、動きがとれなくなっていた。

第四章：遺伝的考察

彼の馬鹿さ加減が、突然変異かと思うと、そうでもないらしい。父は、「たのきんトリオ。」を「狸のトリオ。」と思っていたし、母は、陸上のカール・ルイスとお米のパール・ライスの区別がつかない。姉に至っては、初めて二段ベッドの上段で寝た夜、落下の恐怖の為、体をベッドにしばりつけたという、輝かしい経歴を持つ。

エピローグ

以上ただらだと書き綴ってきたが、ここで登場した人物・団体等は架空の存在である。例えば、ブラウンに似た人が、読者の知り合いにいたとしても、それは勘違いであることを申し述べておく。

更に、小生の前年の原稿において、多数の方々に御迷惑をかけた事を、本誌上をもってお詫びします。

「燃えました、燃えます」

教II 石 井 久 敬

もうすぐ春の甲子園。本命PLに対抗明德、そして大穴大濠と、今年も楽しみな大会です。

思えば昨年、よくスポーツを観ました。野球、ラグビー、ゴルフ等々。

高校野球は何といつても久留米商の活躍に尽きました。対市立尼崎戦をおぼえていますか。七回まで「0-4」の大劣勢。それを八回に三点を返し、そして九回、劇的な逆転三塁打によるサヨナラ勝ち！大胆かつ豪快な福岡県民の底力を全国にみせつけました。

プロ野球はやはり、日本シリーズ。特に第三戦でしょう。九回の表を終わって「3-4」で巨人劣勢。九回の裏の攻撃もすでに二死、マウンドは西武エース東尾、万事休すか。ここから奇跡は起こった。篠塚は粘りに粘ってセンター前テキサスヒット。続く原もスライダーをひっかけてヒット。スミスは一〜二メートルかと思われる狭い狭い二遊間を鋭く抜いて同点。そしてファイナールはお祭り男、中畑。東尾に変わった駒大後輩の森から劇的サヨナラレフト前ヒット。奇跡の四連打！「野球は二死から」を地でいった、これぞプロ、といえるものでしょう。

ある投書欄に「僕の友人Aは日本シリーズで感激して涙を流したアホだ。」というのを読んで思わず赤面したのは僕だけでしょうか。

そして、ラグビー。同志社、釜石の活躍はさておき、敗れはしたが、

早稲田の健闘が光ったと思います。本城、吉野の卒業、日本代表F B安田の欠場にもかかわらず、慶応を倒し、日体大、明治に善戦したのはやはり立派でした。来季は、大器NO8谷ヶ部（郷土福岡のスターです）を中心に必ずや優勝を果たしてくれるでしょう。

どうも長々とスポーツ観戦記を書き過ぎましたが、ついでにもう一言。ライオンズよ福岡に戻って来い。それがだめなら西武鉄道ライオンズ、すなわち西鉄ライオンズと正確に名乗れ。福岡出身者として、私はこれが言いたい。

さて、前置きが大変長くなりました。これから、私が本当に言いたいことを書きます。

何故、これほど野球、ラグビーは楽しく、面白いのか。

一つに、個々そして集団の技術の豊富さ、動作の多様性があるでしょう。例えば投手の場合、オーバークエスト、サイド等の投法から始まり、肘の使い方、手首の使い方等々。そして野球の場合、この投手の他に野手、打者、走者を含めて十何人かが、それぞれ複雑で、それぞれ異なる技術を持ち、動作を行います。このヴァリエーションは果たしているかどうか。そこから、盗塁、スクイズ等の高等戦術が生まれます。みているだけで楽しく、試みにやってみたくになります。

対して、われらがポートはどうか。個人としてはやはり、体を合わせて、強くまっすぐひく、というのが基本でしょう。しかし、技術とよべるものは、野球等と比べると、やはり数少なく、かつ微妙なものと思います。ハンズアウェイ、フェザーの仕方等色々あるとは思いますが。そして、他の漕手を無視した個人的な技の工夫は許されませんが。各々の動きは完璧に一致するのが理想だから。ポート競技における

「一本足打法」というものは絶対存在しない!!

試合における作戦もやはり、野球に比べると地味でしょう。足蹴り、ラストの入れ方等多々あるかと思いますが、やはり野球のピクオフプレー、ヒットエンドラン等の派手なものはない。

以上、技術、作戦の面から野球とポートを比べてみました。それではポートは野球に比べて面白くないのか。

答は難しいと思います。まあ観て面白い方は明らかでしょうが。確かにそれを通しての技術の習得、試合の面白さ（やるのもみるのも）において、ポートは地味で楽しさに少々欠けるかもしれない。

しかし、よく言われるように、クルーの全員が力を合わせる。すなわち、一人ひとりがひと漕ぎひと漕ぎに責任を果たす。勝利は全員の力により、個人のファインプレーは存在しない、という点にポート独特の美点、目標があるのでしょう。野球でも、全員野球とかチームプレーとかうたわれますが、ポート程とことん求めてはいない。

だいたい、四人が勢一杯全力で蹴りながら漕いで、しかも同時に絶妙のバランスをとらねばならない。この矛盾?!この困難?!それに挑んでこそ男のロマンがあるんだぜい。と思われまます。

以上、長々と書きなぐりましたが、何か野球とポートを無茶苦茶に比較してしまっただけです。そもそも求めているもの、目標とするものが違うんでしょうか。

そして、二年間漕いで来てのポートに対する思い、は正直言ってこの程度のもので。情なくもあり、またつくづくポートは難しい、と思います。

それでは最後に「私の84スポーツ予想」

選抜—明德優勝

夏—取手二優勝

ラグビー—早稲田優勝

西医体ポート—長大医学部初優勝。

今年もおもしろくなりそうです。

ポートの時代なのだ

学I 岡野邦彦

△第一部▽

ポートを漕ぎ始めてはや二年が過ぎようとしている。今年は、かわい後輩も六人できたし、漕ぎも一年生の時に比べて上達したのではないかいな、と自分で感じる事ができた。(これは前年と比較して感じたことで、まだ完成にはほど遠いと思っている。)とにかくこの一年は非常に有意義なものであった。そこで今年一年で私がポート部及びポートというものについて感じたことをざつと述べてみたい。

1. ポートはなぜハードなスポーツなのであるか。

私はポートを漕ぐ人間というものが好きである。何にでも安易な方向、楽な方向へ流されがちな現在、ただ、ただ艇速を上げるために、これでもかーとハードな練習を無駄口たたかずにできる人間はスバライシイ。僕がまだ一年生の時、部員勧誘のため、クラスの人間を手当りしだいあたったことがあった。その時、ある人が僕に言った。「科学の発達している現代において、なぜ人間が舟を漕がなくてはならない

のか。今は、モーターポートというものがあるんだよ。」これを聞いた時、「ああ このヒトと僕とでは、基本的に人種が違う。こういうヒトとだけは酒を飲みたくないね。」と思った。ま、この人にはそれなりの主義主張があると思うが、こういうのは、こうやればあんじょういけまつせバシバシ(ソロバンをはじく音)大阪商人型の思考なのである。このような考え方をする人間がいる中で、直接には一文の得にもならないポートというスポーツをやる人は幸福であり、こういう人達とは喜んでなわのれんをくぐるのでありますね。ポートのきつききというものは集団で艇を進めるところにその根本的要因というものがあるような気がする。例えば一人でシングルスカルなどに乗り、練習する場合、胃の中のものを吐き出してまで五百mの8セツトを敢行することはできないと思う。ケツと一べつをくれてやり、ゴミタメへ放り込んでしまうのである。このような練習は他の人間が漕ぎ続けるから自分もやめるわけにはいかないという、いわば奉仕の精神、責任感というものがなければできないはずだ。これは将来医者になる私達には絶対必要である。その点でポートという競技は、こういう精神鍛練の意味でも価値あるスポーツだと思われる。私などは五百mのインターバルなどをやる時、ついついバテてしまいそうな自分に鞭打って最大の努力をするよう心がけている。悪い言い方ではあるが、手をぬくというようなことをしては他の四人を裏切ることになるし、そんなことではいいクルーができるわけがない。

「ああきつい、もうダメだ。」と一人が思い。「も、もうダメヨ、イヤ。」と一人がわめき、「寒いよ」とコックスが思っても、五百mのインターバルは、個人個人の最大の力を出し切っておこなわれる。

皆途中で放り出してしまいたいと思いがらも、五人になるとやっ
てしまふ。なんとスバラシイことではないか。普通、民主主義社会にお
ける多数決の方法ならば半分以上の人が「いややでー」と言つてしま
えば、それで否決されてしまいます。ところが、このクラブでは、多
分だれ一人として自分からすすんで五百mの8セットしたい、やりた
いなどと思つていないのにやっつてしまうんだから、スゴイなと思う。
この前の新生をまじえての第一回目の練習の時、練習後のタンツェ
ン（ひざを曲げて飛び上がる運動）は20回でいいと言つたにもかかわ
らず、一人一人が他の新生に目くばせしながら40×3をあえぎなが
らやつてしまった。A君も鳥忠で30分死んでしまうほど頑張つた。多
分あそこで一人でも20回でやめてしまったら全員40回はやらなかつた
らうと思う。40×3のタンツェンを死にもぐるいでやる新生の表
情からポートの本質というものを知つたような気がした。

2. ポートの良さ

ポートの良さはどこにある。と言われれば、ボクは迷わず五人で艇
を進めるところにあると断言したい。すなわちこの競技は限りなく結
束の強い大日本帝国一億玉砕型団体競技だと言うことであり、ボクは
この所が大変気に入っているのです。普通団体競技を列挙せよ
と言われれば、一般大衆はバスケット、野球、ラグビーというものを
挙げるのではないか。しかし、これらのスポーツは皆でやるのだけれ
ど、その中に占める個人のウェイトがかなり高い。すなわち、そこ
には必ずヒーローというものが数人存在する。これは、新聞の見出しを
見れば容易にわかる。

プロ野球であれば「駒田、満塁での価値ある一発!!」といつてド
ンとホームランを打つた瞬間が大写しされており、「いやー、まん中
のカーブでした。」などという試合後のインタビューも要約されて載
る。ところが、ポートの場合、もし載るとすれば、「長崎大学Aクル
ー優勝」と、その試合経過だけであろう。写真もゴールの瞬間ぐら
いが見せたい。まかりまちがつても「長大Aクルーのバウン君、五百
m地点六十七本目恐怖の高波二十五cm!!」などという見出しでバウの
フィニッシュの瞬間が大写しで載るといふことはないのである。すな
わち、ポートの場合そこにヒーローというものが存在しない。いや、
その艇の皆がヒーローとなるのです。それだけにポートでは勝負とい
うものが果てしなく重要視される。勝たなくてはおもしろくない。他
のスポーツのようにチームは負けただけ、オレはファインプレーもし
て、よく打つたからいいもんね。なんてことは言つてられないのだ。
負け試合の後は、OBの生先方から罵声をあびせられ、勝つた後は拍
手で温かくむかえられる。従つて、ひたすら勝つために五人が一丸と
なつて練習する。そこが非常にいいのである。

最後に、前の支離滅裂な文章の要点が、先日、I君から借りた本に
わかりやすく、かつズバリ書かれていたので引用させていただく。
「ポートの練習で最初に教えられることは、正確に漕ぐということだ
す。そして正確に漕いで合わせることを教えられます。ひとり漕い
でも艇はまっすぐ走りません。全員が協力することによつてはじめて
まっすぐ艇が進むことを教えられます。またクルーの一人一人がより
よいオールをひくためには、いかに漕ぐべきかを常に考へて、自分の
なすべきことのために最大努力を続けます。このような練習を長い間

続けているので、ボートマンは最大の努力をつづけながら、クルーの一員として協力するということが精神的にも肉体的にも身につけていきます。この点がボートだけがもつ一大特長です。」

△図解ボート漕艇 北川 喜一郎著▽

△第二部▽

現在、「君はボート部に入ってよかったと思うか。」と問われれば、即座に、かつ素直に「よかった。」と答えることができる。これはボートを漕ぐことができる楽しさもあることながら、優しい先輩、楽しい仲間達、かわいい後輩と共に酒を飲んだり、飯を食ったり、ボート以外の活動を行う楽しさも大きいからである。

1. 絶叫、長大祭スポンジ投げ

恒例スポンジ投げが今年もおこなわれた。このスポンジ投げというのは、ボート部伝統となった出し物の一つで、その名のとおり、スポンジに水を含ませるのに向かって投げるといってごく単純なものであります。この的というのが、人形や絵に書いたものというのなら、そこらへんの祭りでもよく見かける出し物なのですが、この場合、それがなんと人間（新入生）なのであります。ここらへんが、いかにも大学生ウケする発想なのですね。すなわち、大きなベニヤ板に例えばアラレちゃんの絵を書き、その顔の部分にちょうど人間の顔の大きさの穴をあけ、そこから「んちゃ」と言って顔を出し、的となるわけなのです。その絵は部員がペンキで描き、五mくらい離れてみると、なかなかまともに見える絵なのですね。今年の長大祭でも僕らが一休みしていると何を勘違いしたのか、この板から顔を出し、「んちゃ」と言って写

真を撮っている親子がいたぐらいです。さて、ここでの主人公は、この役にかかんに挑む新入生達たちなのです。なぜ新入生が的にならなくてはならないのか？それは、一度やるとよほど異常な性格の持ち主でなければ二度とやりたくないと感じるからなのです。ハッハッハッ 昨年は私ものをやらせていただきまして恐い思いをしました。最初、先輩から「スポンジだから大丈夫だもんね。それに、これをやれば水に対する恐怖もなくなるしね。ほら、酒でも飲んで度胸つけて。」と言われて安心してたわけです。この時使うスポンジというのは、台所で奥さんが使う普通のものでも皆様が御存じの通り軽い。しかしこれが水を含むとなると状況は一変する。わたを背中にかついだロバが川で荷物を軽くしようとしてわざとこけて、バカを見たという子供のころ聞いた童話が脳裏をかすめる。この水を含んだスポンジが僕らの顔めがけて水しぶきを飛ばしながら飛んでくるのである。今年にはウラにさびびる用の鉄性ガザガザ付きスポンジにかえて、値上げに踏みきろうという意見もあったが、一年生の壮絶なる反対にあつて中止になった。昼間は圧倒的に子供づれの家族が多く、あたってそれほど痛くはない。しかし問題は夕方から夜にかけてである。その時分になると、子供達は姿を消し、仕事から解放されたお父ちゃん達や、そこいらの高校生がやつてくる。彼らが投げるスポンジはなかなかスビードがあり、かなりこわい。しかし、ここで最も恐れるべき人間というものは、①ストレスをもった人 ②特殊な技能を持った人 ③アルコールの入った人である。①は普段から上役にうらみを持っているサラリーマン、学校で成績があまり良くなくいつも担任からガミガミ言われている高校生、恋にやぶれた若者などがあてはまり、この人々の

一投には各人各様の「怒り」というものが込められている。

「このハゲヤロー、死んでまえ！」

「成績がなんや、テストがなんぼのもんや、ドツイタルデノ」

「明菜くっ、おっおまえは何であの男の所へ行つてしもたんやノ」

など心の中で叫んでいるのだ。多分。気のせいかもしれないが、か
よう人々のスポンジはスピードの割に痛い。体の芯にズキンとくる。

この時ぼくはふと思った。このスポンジ投げを全国に普及させれば、
校内暴力などはなくなるのではないだろうか。②は例えば各種スポー
ツ関係の力自満である。こういうのは毎年一組はやつてくる。昨年は、
どこかの高校の野球部の連中がやつてきて投げまくって行った。特に
僕が的の時、そのエースがセットポジションからふりかぶつて投げ
たのには驚嘆した。今年は野球部こそ来なかつたが、大男が三人ほど
やつてきて、ものすごい速さでスポンジを投げていった。よく聴いて
みると、一人は国学院久我山の柔道の国体強化選手、もう一人はハン
ドボールのインターハイ選手、残りの一人はミドル級のボクシングの
選手だった。③はもうだいたい酔っているため、スポンジに破壊力は無
いが、投げるべきラインを越えてカンガルーのように跳び、「ギョエ
ーッ」という絶叫とともに投げつけたり、五百円払って当たるまでや
つたり、三つのスポンジを一度に投げつけたり、むちゃくちゃなこと
をする人々である。一年生にN君というのがある。彼は沢野ひとしの描
く人々の目（通称ワ二目）に似ていて、生まれつき目つきが鋭く、な
にかとよく町などでトラブルに巻き込まれる。その彼が普通の表情を
してのになつている時、酔っぱらいが来て、「なんやその目は!!」と
言つておもしろいスポンジを投げつけていったのは印象的であつた。

それにしても、今年の一年生はよく自分の役割りを果たしたと思う。
売り上げも二万円、元手がほとんど必要なく、文字通り体をはって稼
いだものだからその大半が総利益となる。ただ一つだけ不安なのは一
年生のT君である。彼は大変よく的になつた。最初のうちは顔にスポ
ンジがあたりと「ゲッ」「イヤー」という叫び声をあげていたが、夜
もふけてくると、それが「あっ」「もつと」「やめないで」という声
に変わり、客がいなくなると、「岡野さん当ててー」とわめくようにな
つた。多分彼は学四になるまでのにり続けるだろう。ただ僕は彼
がこれを期に変な方向へ走り出すのではないかと恐れている。ともか
くも「スポンジ投げ」は一年生達のおもしろがなしい試練の場なので
ある。

2 西医体レセプションと木曾路珍道中

八月七日、試合終わる。レセプション会場静岡大学工学部生協へと
向かう。初めは空腹を満たすため食物摂取、後、京都大学のビールぶ
っかけ事件を皮切りにしてレセプションは大荒れに荒れた。最後はプ
ールの柵を乗り越え、泳ぐ人間もでてきた。これもやはり京都大学で
あつた。数人で一人をかついでプールに投げ込む。投げ込まれる人間
も付近の人間の服をひつつかみ道づれにする。ずぶぬれになつた人間
はプールからはい上り、頭のぬれていない人間を探し出し、水中にひ
きづり込む。一度水につかつた者は、「一人殺したら何人殺しても同
じやノ」と叫ぶ殺人犯大久保清の心理と同じで、五回、六回と飛び込
んでいた。しかし彼らはその度に一人または二人を道づれにすること
を忘れなかつた。昔、ゾンビという映画があつたが、ゾンビにかみつ

かれるとその人間もゾンビになつて人をまた襲うという恐ろしい内容であつた。一度ぬれた人間はこれまで仲間であつた「乾いている人」を襲うという点で、これと共通した点があると思う。このようにして、ずぶぬれ人間は、ゴキブリ掛け算式に増えてゆき、タクシーで町へ繰り出す時には全体の半分がその仲間になつていた。町に出てからは、駐車場の鉄棒で、浜松の土方のオッサンを加えての大学対抗懸垂大会をやつた。私はいつの間にか長崎大学代表にさせられ、浜松市民の冷たい視線を背中に感じたのであつた。

その後どこからともなく取つてきたうなぎの旗をふりかざし、商店街を行進し、二度と浜松には来れない人になつてしまつた。僕はその夜、浜松医科の人の下宿に矢次先輩と泊まらせてもらつた。一部屋にざこ寝であるが多くの人間が駅のベンチで寝たことを考えると、非常にラッキーであつた。朝十時にT君と駅で待ち合す。浜松を発ち、静岡で一泊。翌日、普通列車で諏訪湖へ行く。距離が短いから早いだろうというのは、浜松ではウナギがとれるから安いだろうという理論と同じでしばしば覆えされる。新幹線で行けるとするとたかが一時間足らずの距離であつたが、待ち時間を加えると約七時間もかかつた。前日の作戦会議では、ウォークマンをもつてくれればよかつた。とか、七時間も何をすればいいんかいな、という意見(?)も出されたが、二人でしゃべくりながら外の景色を眺めていると意外と時の流れが早く感じられた。一人想ふことありてとか、恋に破れてという特別な理由、状況というものが起こつてしまつた場合は別であろうが、一般的な旅は二人以上の方が退屈しないでいいように思われる。現在の僕の場合、思うことはあつても食欲は全く落ちず、考えているうちに、

布団の中でスヤスヤ寝てしまふし、後者に至つてはそれ以前の段階である。従つて一人旅で、砕け散る波しぶきを前にして、日本海に向かつて「バカヤロー」などと絶叫することはまずないだろうと思つている。その日は、諏訪湖Y・Hに泊まる。

同室にドイツ人あり、英語が話せるようだったので、「Do you speak English?」と聞く、相手答える。意味わからない。というところで話題は全く進展しなかつた。英語力のなさを痛感し、後期から真面目に授業に出ようと思う。(そのくせ、今授業をサポート原稿を書いている自分は何だ!)

どうも今日の大学生はバカが多いようである。(私だけかもしれないが。)

翌朝、諏訪湖を出発し、木曾福島へ向かう。昨日のミーティングで仲良くなつた名古屋の女の子二人組と途中まで同行。彼女達は保母さんであり、最近増加しつつある園内暴力の様子及びそれらに果敢に立ち向かう保母達について語つてくれて楽しかつた。また、ここで初めて聞いた話であるが、最近就職難のせいか保母さんならぬ保父さんという基本的には好ましくないものが出現しつつあるという。いい年こいたオッサンが、オルガンを弾き、園児と踊る。そしてあの節くれだつた手で子供の頭をなでる。こういう四次元空間にはまり込んだような生活を送っている園児もいることを考えると私の幼稚園生活は実にハッピーであつたなと思う。木曾福島で半日観光をする。ここには、やたら島崎藤村関係の資料館が多く、彼の偉大さと地域の人々の商売根性のスゴサを知る。(入場料だけで合計六百円ぐらい取られた。)その日は、旅情庵Y・Hに泊まる。そこはかなりの田舎にあり、駅

から三十分ほどかかった。Y・Hというのは各地によって多少の差はあるが、朝夕飯付きで三千円以内。格安である。ただ異様だったのは、夜のミーティングであった。Y・Hクラブのヘルパーとかいう大学生がやってきて、みんなで歌を歌って単純なゲームをするのである。そのヘルパーがまた青春まつただ中、夕日があつたらそれに向かつて走っていかうかという森田健作風のヒトであり、「さあ、もっと大きな声を出して歌おうぜ！」などと叫びつつ、我々に「岬めぐり」を歌うことを強要するのである。わがクラブお得意の酒のみ夜の絶叫大宴会という方向に持つていくことも可能であつたが、Y・H会員から抹消されては翌日の宿がなくなるのでやめた。ついでだから書くが、もう一つ異様だったのは、諏訪湖Y・Hでの朝の写真撮影であつた。飯を食つてそろそろ出かけようかと思つていたら「カメラを持つて玄関前に集合して下さい。」と言う。言われるままに行つてみると、玄関前で皆といっしょの所を撮つてやるからカメラを出せということであつた。出されたカメラ二十数台、写される人三十数人、以下()は筆者の心の中の言葉。

「はい、このカメラだれのかな。」

持ち主らしき者が手を上げる。

「それじゃ君を中心に撮るからね。」パチリノ

最初はこれが7、8回続き足がだるくなつてくる。

「このカメラのヒト、いくよ。あれ。」押してもシャッターがおりない。持ち主が走つて行く。フィルムが巻いてなかつたのだ。

(フィルムぐらい巻いとけよ、ボケノ)

「このカメラのヒト、どうやってピントあわせるのかな？」持ち主走

つて行つてピントあわせる。

「一眼レフは苦手だな」と言いつつパチリ。

「このカメラのヒト、手を上げて」ボクが手を上げる。

「これはこのまま押せばいいの？」

ボクうなづく。(バカノそれは全自動だよ、見りゃわかるだろ)

「これだからバカチョンカメラはいいね。」

(バカチョンで悪かつたなノ)

「はい持ち主のヒトもつと笑つて」

(笑えるかバカノ早くしろ)

以上のような憤激の中十分間立ちっぱなし撮影会が終わつた。この時の写真は現在、私のアルバムの中にあります。見たい方は坂本アパート六号まで。

ミーティングの後、馬籠・妻籠間を歩かれる方は話がありますので控室の方へ来て下さいということだったので行く。ヘルパーのお兄さんの話によると、ドイツ人のマイクさんが木曾路を歩くのでいっしょに連れていってほしいということであつた。ボクは、「いいんじゃないの」と簡単にひきうけてしまった。翌日、木曾路へと向かう。メンバーは、東京の石川君、大阪の宮崎さんという名前と出身地を入れ変えても、なんら支障をきたさないという人達と、長崎の我々二人、それとマイクさんであつた。木曾福島↓南木曾まで鈍行で一時間。そこから妻籠までバスで三十分。車内でボクはマイクさんの隣であつた。彼が英語を話せるのは知っていたので、英語と身ぶりて話をする。彼は地図を拡げて、日本の三大庭園はこれとこれとこれでしょ。と聞く。正直言つてボクは良く知らなかつた。沈黙しているボクを見て、

「知ってるでしょ」と彼は追撃の手をゆるめない。そこで思わずうなづいてしまった。うそをつくのはよくないが、彼と話をしていると、「今はオレが日本人の代表なんだあ」という感じになる。そして、ボクの頭の中で反日感情↓貿易問題↓日独対立とエスカレートしていき、「ここでオレが頑張らねば!」「オレにかかっている!!」と自分一人で興奮してしまうのであった。外人が日本の三大庭園を知っているというのにオレ知らんもんね、ではすまされないのである。素人のど自慢で音楽の先生が鐘二つではすまされないのである。妻籠に到着し、旧中仙道を歩き始める。ここには、江戸時代風の町並が続き、流石中仙道ノという感じであった。ただ人の多さと、電動カキ氷機とが、江戸時代の旅人への自己陶醉の道を妨げていた。町中で女の子が建物のスケッチをしていた。多分、夏休みの宿題の類であろう。鉛筆を握る手からは、好きだから書いてやろうという積極性は感じられなかった。マイクさんはそれをのぞき込み、「うーん、とつてもきれいです。」と言う。女の子で、頑張つて手を動かす。彼女も今は日本の代表なのだ。その光景を見て、私はドイツ人は気さくだなと思つた。しかし、向うの方にもう一人男の子がスケッチしていたが、こちらには目もくれなかつた事実を僕は見逃がさなかつた。男性下心的欲望から生ずるこの一連の行動は万国共通であると思われる。ここより延延十一Kmの旧中仙道を歩く。途中の山中からの景色は、フジカラー400もブレンバスター一発という美しさであった。ただひたすら上りの山道で、「木曾路はすべて山の中である。」という藤村の文を思い出す。マイクさんは、ドイツの山のとんどを征服したというその足で、僕ら日本人がぜいぜい言っている時にもただひたすらもくもく歩いて

いた。妻籠―馬籠は山道(本物)、舗装道路(後にできて、車が通れる)の二種類に途中分れていたが、マイクさんは、僕らにアスファルトの道を歩くことをさせず、ひたすら本物の旧中仙道をばく進していた。僕らがかかりへばって苦悩の表情をかくしきれなくなつたころ、マイクさんはどういうつもりか、ちよつと上を登っている女性を指さして「Look at the girls!」(あの女達を見よ)と叫んだ。彼女達も頑張つてるんだから僕らも元氣出そうぜ、という意味であろうか? いや、あの女は後姿がいいから追いついて顔を見てやろうという意味だと僕は解釈した。(男の考えることはどの国でも同じだ。)我々は頑張つて前進し、その女性達に追いついた。そして口々に「けっ」と言い放つて突き進んで行つた。この「けっ」という言葉はポート部内でもよく耳にする。赤のライトバンに乗つて住吉界わいを走行中、後姿がいい女性を発見する。部員の熱い視線の中、車は彼女を超越し別の角度から眺める。この時、後姿からの予想される前姿(どういう言い方だ)より実際のものがかなり劣るときに発せられるのが「けっ」なのである。一般的に、女性に対する外見上の評価というものは、男性によつて発せられるつぶやきというものによつて四段階に分類できると思う。スバラシイ美人を見かけてしまった場合、「おおっ」なかなかいんじやないかなという場合「むむっ」人並みですなという時「ふーん」、女然とは言つても、「ん、今何か通り過ぎた様な気がするんやけど……」というオバサン・オバアサンは、この場合除外される。一方、平均より劣る容姿の女性の場合、「けっ」が発せられるのである。また筆が横滑りしてしまつた。「けっ」の活用から話をもどそう。山頂に到着し、自動販売機でジュースを買う。僕らはアクエリ

アスを飲む。マイクさんが、「それは何だ。」と英語で宮崎さんに尋ねていた。宮崎さんは「スポーツドリンク」「アルコールイオンドリンク」など英語とも日本語とも思えない言葉を発して説明していた。マイクさんは理解したのか？多分わかっているまいだろう。なぜなら、宮崎さんにさんざん説明させておいて、自分はHCアップルをすすっていたからである。ここは八百一mなので平地で百円のジュースが百二十円であった。マイクさんは「なぜ今、ジュースが百二十円なのか」という問を僕に発していたが、かなり疲れていたので適当にあしらった。日本代表も木曾路には勝てなかったのである。山頂からは、当然のごとく下りであり楽だった。我々が、ドタバタと下っていると、マイクさんはS字を描きながらゆっくりと下っていた。なぜそんなことをするのかと尋ねると、こうすると足を痛めなくてすむということであった。私はそれを「アナコンダ歩法」と称し、皆で真似をして下っていた。馬籠では藤村関係の資料館オンパレードで目に止まっただけでも五つあった。藤村の手紙、原稿、服、時計、藤村と名のつくものがこれでもかノという感じで展示されていた。そのうち、エスカレーターとして、藤村の骨、ハナクソ、愛用のトイレトペーパーなどが出てくるのではないか。そんなものにはお目にかかりたくない。馬籠のバス停付近で子供が母親とはぐれたらしく「ママー、ママー」と泣きわめいていた。こういう状況で、日本人は、まあ可哀相にと視線を投げかけながらも通り過ぎてゆく。我々四人も例外ではなかった。しかし、マイクさんは違う。子供の前にしゃがみ込み、独語で何かしきりに話しかけていた。この瞬間、その子は泣きやみ、走り始めた。髪が金色、目は青の異人にわけのわからん言葉で話しかけられた恐怖で涙

が乾いた。そして、小さな痛みもより大きな痛みの前には消えてしまおうのと同じ様に、一瞬、ママじゃなくてもいいから日本人の所へ駆けつけたいかかったのではないか。これは、高校までは志望大学に入れたらもうそれだけでいい／なんにもいらん／と豪語していたにもかかわらず、一旦大学に入ってしまったら、長崎はなーんでこんなに遊ぶ所がないんやと患痴をこぼす状況によく似ている。ママじゃないといけなはすつかりな感じで、相変わらず身ぶり手ぶりの英語を連発していた。「最初は互いに神経質になるけれども、すぐに仲良くなれるんですよ。」とマイクさんが言う。山の木々の輪郭も暗やみに溶け込みつつある木曾路を後にする列車の中で、私はこの言葉を聞いてこの人と一日旅をしてよかったとしみじみ思った。駅からは時間が無かったのでタクシーでY・Hまで行く。タクシーの中で僕は、「日本人は親切で、英語も話せる人が多いので困った時には気軽に話しかけて下さい。」と言った。日独親善は着実に進行しつつある。その時、マイクさんはしきりにタクシーの運転手さんに「Do you speak English?」を連発していた。だがその運転手さんは僕の期待を裏切り、ほほ及びこめかみ周辺をしきりにひきつらせて、一言もしゃべらなかつた。日独親善はまたも暗礁に乗り上げた。その日のY・Hの夕食はスキヤキであった。スキヤキと聞いてマイクさんは「私知ってます。」と言って食べるまねをしていたが、どうもその身ぶりからは正確にこの料理を把握していないように思われた。

スキヤキというのは皆さん御存じの通り、鍋に肉、野菜、トウフ、その他食えるものを次々と投下していく日本特有の料理である。外

国にはもちろん無い。このスキヤキに見られる様に、日本人というのは私の見る限り、何でもいっしょにしてしまおうという基本的態度というものが潜在的に存在するように思える。食堂にちよつと足を運んでみても、西洋料理では、サンドイッチ、ハンバーガーが、食物合体の片鱗をのぞかせている程度である。しかし、日本料理となると、カツ丼を筆頭とする丼物類、おじやを筆頭とする鍋物類、海と陸の王様が合体したすしなど枚挙にいとまがない。うちのオヤジなどは、時々ミソシルを飯に投入し、自分なりの合体化というものを図っている。

また、京都の中華料理店で見つけたマーボー丼（飯の上に、マーボー豆腐がかかっている）も多分、日本人の仕業であろう。この合体癖は、食品にとどまらず、最近ではテレビとビデオでテレビデオ、シャーペンシルとボールペンでシャーボなんでも登場している。そのうちテレビと時計とラジオとカセットデッキなどがいっしょになったものも登場するだろうが、その時はどんな商品名にするのが、僕は楽しみでしようがない。これからは、そんななまやさしいものではなく、ヤカンにテレビをつけたり、ポットとテレビをいっしょにして、ポットテレビとして発売してほしい。そして今なせポットにテレビがついているのだろうかとお茶でも飲みながら考え、悩んでみるというのもオモシロイのではないかと、ふと思ったりする。とにかくこの日は身体もさることながら精神的に疲れてしまったのである。翌日はY・Hに來ていた筑波大学三年生のお姉さんの車に乗せてもらって駅まで行き、列車に乗る。一行は京都へ向かう。僕の連絡不行と京都駅の広さのため、駅でさんざん歩きまわった。その日は僕の友人の部屋で寝る。部屋といつても、四畳半、ざこ寝である。この日の京都の日中最高気温

三十七度。夜とは言っても、窓一つの四畳半、扇風機一台のみとなる熱地獄となるのは必至であった。「ひゃあ、暑い、暑い」と言いつつ扇風機の首ふりボタン及びタイマーをかけて寝る。ところが、あまりの暑さのため、タイマーが切れると、誰かが「うーん暑い」などとうめきつつごそごと這ってまたタイマーを入れる。一時間後に切れるとまたタイマーを入れるという様なことを繰り返すうちに外がうっすらと明るくなってきた。実にアホ極まりないことを繰り返したものだ。翌日は、「京都名所めぐり半日コース」の観光バスに乗る。私の友人は京都に住んでいながら観光バスは初めてという。私も長崎の観光バスには乗ったとがないし、この前、大学に入って初めてグラバー邸に行った。観光に関して地元は燈台もと暗しの様である。

まわる場所は、清水寺・西本願寺・金閣寺・平安神宮・智恩院・三十三間堂であった。京都は、この日も暑かった。観光バスなので三十分おきぐらいに、バスの中へ入ったり出たりする。バス内と外では気温差が十度ぐらいあるので、頭がくらくらした。四季がある日本人でさえこうなんだからブッシュマンがこの観光バスに乗ったら多分発狂するのではないだろうか。私は、「暑かーっ」と長崎弁まる出しのまま観光をすすめていった。この中で我々が共通して強く叫んでいたのは、金閣寺での「なんでこんな人が多いんやー」であった。しかし、冷静に考えてみると我々もその観光客の一人であるのだから声を大にして言っただけなのではないかのである。智恩院に行った時、その廊下を説明書を読みながら歩く。説明書には、「この寺には驚張りの廊下」があり、通るとキュッキュッと、うぐいすの鳴く音がする」と書いてあった。なるほど歩くと音がする。これぞ驚張りの廊下

と自分達で納得し、「建立して何百年とたっているのにすごいなー」など口々に言い合っていた。すると柱に次の様なはり紙がしてあったのである。「ここは驚張りの廊下ではありません。」要するに建物が古くてきしんでいただけなのであった。あー恥ずかしい。灼熱の京都半日観光を終え、あと二泊して北九州へと向かい、この旅も無事終了したのであった。

今回は旅についてちよつと筆を走らせてみようかなと思つて書き出したわけであるが、止まらなくなりとうとうここまでできてしまった。飽きもせず終わりまで読んで下さった方々に感謝。(はたして何人いるだろうか?)

しかし、今回は生まれ初めての自由な(無計画な)旅であつたことも加勢して、色々な面で新鮮で、おもしろかつた。今度、誰かが、「いっしょに旅行に行かないか。」と僕にきけば、思わずこう言つてしまふだろう。

「行つていいとも！」

期待はずれ

学I 金 色 正 広

日本シリーズで江川が一勝もできなかったように、サラエボ五輪で黒岩が入賞すらできなかったように、昨年の西医体において我がボート部も「今年こそは優勝を」と期待されつつ、ものの見事に裏切つてしまいました。新艇「崎陽」購入に関し、多大な御援助、御協力頂きましたOBの先生方に対してもAクルーCOXとして責任を感じてい

ます。

今期のAクルーはオール学Iとなり、技術的、精神的にCOXを含めて未熟な面が多くありますが与えられた時間を十分に活用し、昨年の西医体・全日本選手権などでの貴重な経験を活かしてがんばりましょう。力をつけてきた教IIの諸君に中山さんの整調、ガラスの腰ではあるけれど力のある青木(頭も使つてネ)が加わつた強力なBクルーと共にぜひメダルを願っています。今年こそは……期待はずれにならないように。

「氣くばりのすすめ!!」

学I 朝 長 道 生

昨年一年をふり返つてみて、最もつらく苦しかったことが夏合宿だったならば、最も楽しく思い出されることは、西医体の後、岡野くんと二人で木曾路を旅行したことであります。今回はそれを日記風に綴つてみたいと思います。

8月7日〜8日深夜

レセプションで浜松医科の学生をkeepすることができず、結局、浜松駅前のベンチで一夜を明かす。一人じゃこんなことできつこないが、見渡してみれば、あっちこちのベンチで寝ているのは長大の奴らばかり。皆の運命共同体的行為は、浜松の浮浪者の方々に多大な迷惑をかけてしまったようです。実際僕その他に山本太郎くんなんかもお前らがここで寝ているから自分は今夜は寝場所(西武デパート前

寝てきた、とか言っていたように思う)を替えなくてはならなかったと、言われたそうだし、他の部員で同じようなことや、警察の方に、「君たちは何だ?」と職務質問された者もいるかもしれません。野宿なんてポットで鍛えた体でへっちゃらさ、なんてたかをくくっていたのだが、やはり、夜中になると外気も冷え、酒の酔いもさめてか寒い。新聞紙か何か体に巻けるものは?と辺りを見回すと、ちょうどNHK大河ドラマ「徳川家康」のぼり旗があつたのでちよつとだけ拝借しようとしていると、お巡りさんが二人してこちらに向かつてくるようなので、ここで捕まったら大変と、それを持っただけで逃げました。浜松市観光課のみなさんごめんなさい。でも悪いのはボクじゃなくて、着換えを入れたコインロッカーを共用した岡野くんとは別れ別れになってしまった運命が悪いんだと、ボクを許して下さい。

8月8日

浜松駅の一角にあつた「浜松観光・工業紹介」のところで、始まつたばかりの甲子園を見ていると、今回の旅の相棒である岡野くんは肩をたたかれた。彼は、ちゃっかり浜医のヒトをkeepして、その人の下宿にお世話になつたそうである。

早速、静岡の僕の高校時代の友人、入江俊太君のところへ向つて出発。彼の家のクルマを借りて、日本平・久能山・登呂遺跡などを回る。日本平はドライブコースにもなつていて、清水港・静岡市が一望できます。太平洋の遠い遠い水平線を見ていると、狭い長崎に住んでいるせいでしょうか、遠くまでやつて来たなあという実感が湧いてきました。

夕食は俊太の家でアユを御馳走になり、手厚いおもてなし、大変有

難うございました。この紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。久しぶりに高校時代の思い出話に花が咲き、とても楽しい夜を過ごせました。

8月9日

静岡↓富士を東海道本線で上り、富士↓甲府を身延線で上り、甲府↓上諏訪を中央本線で下る。朝十時頃静岡を出発して、上諏訪に到着したのは夕方六時近くで、一日中列車に揺られる旅でした。「鈍行のほうが土地の人と話せる機会が多いだろうから」と意見しましたが、岡野くんが、男二人じゃ退屈だから急行にしようと言うので、結局、急行を利用できる場所は利用することにしました。今回はこれで正解だつたと思います。身延線だけでも三十九ヶ所の駅があり、鈍行に乗っていたら大変だつたらうし、実際、急行に乗っていても、同席の女性の方から話しかけられ、色々な話も聞くことができたからです。線路の両側一帯に広がる桑畑や葡萄園、「波高島」という駅名の由来など、土地の人の生の声を聞くことができ、これが「旅の醍醐味」であると確信しました。(でも、このオバチャンにはGeorgiaを一缶おごらされました……)

上諏訪へ着いた二人はすっかり腹をすかし、目的地であるスワコY・Hへは直行せずに、駅前のアーケードにあつた食堂へ入りました。ところが注文した特製山菜釜飯が高くてまずい。駅前の食堂・お土産品というのは長崎も同じで、名物ー、特製ー、などと銘打つて、観光客の財布を軽くしようとする。例外もあるでしょうが、まず駅近くのお店に良い店はない、これは皆さんご存知のことだと思えます。さて、二泊日のスワコY・Hですが、百六十年も前に建てられた旧

甲州街道の宿場で、ちょっとした高台にあり、諏訪湖の夜景は旅情を充分ひきたせてくれるものでした。今回の旅行でも一番良いY・Hであったように思います。

8月10日

外人さん(ドイツ人)と床を並べて寝たせいか、寝覚めがよくない。

“Guten Morgen”の後が続かないこの悲しさよ。

朝食を終え、皆が発する頃になると、宿泊者のほとんどが玄関先に集まり、写真撮影会が始まる。各々自分のカメラを持ち寄って、*helper*の方にシャッターを押してもらうだけのことなのですが、皆が皆カメラを差し出すと、「オレだけはちがっていたい。ここまで写真撮りに来たんじゃない、旅行しに来たんだ。」と場の雰囲気から一人だけ浮いてしまったんですが、それでもやはり、岡野くんのカメラにはしっかり納まっているところ、「せっかく来たんだから思い出に一枚くらい」という気持ちもあって、苦しいところです。

昨夜の*meeting*で岡野くんがワタリをつけてきた*charming*な女の子二人と、諏訪大社に寄って中央本線を下る。二人は、佐橋あつよ(現在は御結婚されて熊沢姓)さんと、鈴木智子さん、名古屋から来られた幼稚園の保育さんで、木曾路はもう二度目だというので、道中大変お世話になりました。この誌をお借りして、厚く御礼申し上げます。たいと思います。

「奈良井」で途中下車した二人と別れて、我々は木曾路へ。午前中の間に、木曾郷土館、山村代官屋敷、高瀬家、福島関所跡などを訪ねる。高瀬家とは明治の文豪、島崎藤村の姉園(その)が嫁いだところであり、小説「家」のモデルとなった家である。(園は「家」のお種、

「夜明け前」のお衆(くめ)であり、「ある女の生涯」のモデルともなっている、そうだ。)あいにく我々が訪ねた時は補修工事中で中に入ることはできませんでしたが、藤村の手紙など興味深い資料が展示されているので、機会があればまた寄りたいと思っています。

『木曾路名所図会』に「駅の右の方に御番所あり。此所女と鉄砲とを改め、遠州荒居の如し」とある福島関所は、天下の四大関所の一つであることは、皆さん御存知のことだと思えます。現在の建物は、明治二年に廃関後に取りこわされ荒廃してしまった関所を、昭和五十年に復元、整備されたものであるということです。ここでは美女三人組にシャッターを頼まれ、「小さな親切」をしました。女の子が三人それも美人が一緒にいるということは滅多にないことで、普段、街を歩いていると、美人+ブス×n(n||1.2……)がほとんどで、僕はこの小さな運命を素直に喜んだものですが、この「女の子の取り合わせ」と自意識との関連はまだまだ研究の余地があるように思われます。(決して女の子を外見だけで判断しているんじゃないやありません。大切なのはあくまでもココロです。誤解のないように……)

話は大きく横道にそれましたが、お昼も回った頃、町役場の近くの食堂に入り、昼食をとりました。お店のおばちゃんは気さくな人で、一見して旅の者とわかるのでしょうか、僕達に話しかけてこられました。木曾の屋根には瓦を使った家が少なく、トタン屋根が多いのは何故か、尋ねそこなったのが悔やまれてなりません。(snow?)

途中で別れた鈴木・佐橋さんと二時に興禅寺で落ち合う約束をしていたので、それに間に合うように興禅寺へ急ぐ。興禅寺は木曾義仲をはじめとする木曾氏・山村氏の墓がある所で、日本一広い石庭看雲庭

もあり、一度は覗いてみたいところです。レンタサイクルでやってきた女の子達を、帰りは僕らが後ろに乗せて、木曾福島駅までの長い坂を登る。正直いって非常に疲れることでしたが、何とまあ微笑ましい光景であることか。駅前の喫茶店で食べた後彼女らを見送り、三泊目の宿泊予定地である木曾旅情庵 Y・H に向かう。

夕食は水炊き。Meeting の後、ペアレントの方から、明日妻籠へ馬籠に行く者でドイツ人の方と一緒にしてくれる者はいないかと依頼があったので、「旅は道連れ世は情け」日本人もドイツ人も変わるもんか。個人的レベルで日独親善に貢献しよう。と簡単に引き受けてしまいました。でも返ってこれが、今回の旅行をより VIVID なものにしてくれたと確信しています。

8月11日

今日は木曾路のハイライト、妻籠→馬籠を歩くコース。旅の道連れは、岡野くんの他にドイツ人のマイクさん（本名は Michael だと思いが……）、大阪の製薬会社にお勤めの宮崎さんそれに東京から来られた石川君の計五人。

五人はまず、木曾駒高原の麓にあった Y・H からおんたけバスで木曾福島まで出て、中央本線で南木曾まで下り、それから妻籠までバスで行く。出発した当初はよそよそしかったものの、列車の中ではマイクさんと宮崎さんと僕の三人が同席し、Long Morning, Hill and Field とか Stone River などと名前の意味するところを紹介していると、次第に打ちとけあって、会話も弾んできました。彼、マイクさんは、西ドイツで central heating system を design する仕事をやっており（これを理解するには大変苦労した）、日本へは今回が

四度目で、仙台にいる日本人女性との結婚を実現させるためにやって来ているそうです。彼女の両親が日本国内で仕事につくことを条件として要求するので、大変困っていると聞いていた。（実際そんなに困っている人が呑気に一人旅を楽しんでいられるのだろうか？）また、木曾路を旅した後は、岡山の後楽園を訪ねたいとのこと、金沢の兼六園や水戸の偕楽園は以前訪ねたことがあるが、日本三名園についてどういう感想を持っているかと尋ねられた時は、本当に困りました。幸い隣りにいた宮崎さんが代わりに助けてくれましたが、正直に、本州はこれで三度目です、と言うと二人共呆れ返っていた……。

さて、妻籠に着いた僕達は奥谷郷土館（ここではニジマスとコイの料理法・味覚の違いを説明するのに一苦労）に寄り、早速馬籠に向かって出発しました。

信濃路自然歩道の中山道ルートの一部七・五皿を歩くコースで、かつては大名行列などにも使われた道だそうで、今でも石碑など所々にその面影が残されています。しかし、時代の流れに逆らうことはできず、いたる所で一般車道と自然遊歩道とがキアズマシ、せつかく昔の旅人氣分で歩いていても目の前をクルマが通り過ぎれば興醒めです。

馬籠峠まで来れば、後は下りです。ここまでは山道を散策するというより登山しているという感じだったのですが、一番最初にバテたのが宮崎さんで、マイクさんは故郷でだいぶ鍛えてきたらしく、速くなつた遅くなつたりする僕達にもっと Pace を一定にするようアドバイスしてくれました。また下り坂でも直つすぐ歩くと腰を痛めるというので、五人列をつくって道幅いっぱい蛇行していきました。

お昼は、名物五平餅をとりました。鈴木さんからあまり美味しくな

いよって聞いてたけど、米曾路の旅に欠かせないのが五平餅。なんて Guide Book にも書いてあるし、そばやうどんならどこでも食べられるから、騙されたと思って注文してみたんです。で、やっぱりまずかった……。ヒトのアドバイスは素直にきくもんだ。

馬籠では藤村記念館と馬籠脇本陣史料館に寄りました。藤村記念館は、直筆の原稿など藤村関係の資料が沢山あって、マイクさんに説明するのは大変楽しいことでした。しかし、「夜明け前」の原稿を指して、これを英語に訳してくれと言われ、「ミミズが這ったような字で原文が読めないからダメだと言うと、「アナタニッポンジン？」と言う。親切にされるとすぐつけあがって横着になるのは外人さんの悪い癖だ!! 今日中にまた木曾旅情庵 Y・H に戻らなければならぬので、帰路を急ぐ。ところが、中津川までバスで出て、再び中央本線を木曾福島まで上るつもりが列車を一本乗り遅れ、駅前近くの Fast Food のお店で時間を潰す。宮崎さんは明日からお仕事だそうで大阪の方へ帰られたし、残された四人で Y・H の方に、列車に乗り遅れ帰りが遅くなるから、四人分の夕食を keep しておいて欲しいとの旨を TEL で伝え、次の列車に乗りました。長旅からの疲れからでしょうか、岡野くんは列車に乗るやいなや一人だけお休みになり、石川君も英語大キライ学生とくれば、結局、僕一人で中津川までマイクさんと差して話し続ける羽目になってしまいました。僕が最初に覚えたドイツ文である Ich trinke bier や、妻籠・馬籠宿の感想についてなど、話題にはこと欠かなかったのですが、正直いってとても疲れました。夕食はスキャキ。テーブルに人数前の材料と食器は用意してあったんですが、四人の誰も味付けをできる者がおらず、Front に頼んで、

helper の女の子達にやつてもらったことになりました。ところがその女の子達が味付けの段になって自信なさそうな様子でいると、

“If you marry in the future, your husband is very sorry.” と突然言い、女の子達が何かわからずに作り笑いしていたので思わず二人で大笑いしてしまいました。こんな横着な冗談も飛ばせるようになったマイクさんも、明日大阪まで出るのに中津川の銀行で traveler's check を換金しないと切符が買えないという行き当りばったり型人間で、呑気なところは遠藤周作の「おバカさん」を連想させてくれるものでした。彼が本国へ帰り、木曾路では親切にしてくれた日本人がいたと思いついてくれた時、初めて、日独親善に一役買った(大袈裟ですが…)と言えるのではないのでしょうか。

8月12日

昨夜の meeting で話をした筑波大学工学部物看工学科三年の女の子のクルマで、中津川まで送ってもらった。最初は木曾福島までが、南木曾、それから中津川までになり、自分の図々しさにあきれけてしまいます。山間部はどこでも同じかもしれませんが、線路が山の中腹を走るのに対し、車道は川に沿って走っており、昨日と同じ中津川までで、ちがった風景が楽しめ、大変良かったと思っています。僕達の我儘につき合ってくれた藤沢あけみオネエサンにも、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。中津川を出発すると、木曾路ともお別れです。次の目的地の京都へ向かいます。この旅も終りに近づいてきたなあとも名残り惜しい気持ちでいっぱいです。

名古屋まで下り、大垣、米原と乗り継いで京都へ着きました。ところが迎えに来てくれるはずの大村くんが来ていません。(岡野く

んの青雲高校時代の御友達だそうです) 彼の下宿に電話をかけても連絡がとれず、辺りを二人で手分けして探してみますが、それらしき人影もありません。いつまでもここで待っていても仕方がないというので、夕方もう一度連絡をとることにして、京都タワーに登ってみました。後からわかったことですが、岡野くんか大村くんのどちらかが、「八条東口にだけは出るな」を「八条東口で待っている」と勘違いされていたようで、誰にでもこれぐらいの些細なミスはあることです。決して憎めないと思います。

皆さん中学・高校の時に修学旅行や何かで京都を訪れられた方が多いと思いますが、僕は初めてだったので京都市内が一望できるというのは非常に大きな意味があることで、ところがあのエレベーターの中の琴の音はなんですか。思わず傍にいた岡野くんに向かって「観光客ばバカにしとんね!! 外人さんはこいば聞いてニッポンの情緒ば解したって思うとかね?」と吐いてしまいました。彼も多分、同じように思ったに違いありません。さすがに頂上からの眺めは素晴らしいもので、霞がかかった五重塔の傍を新幹線が走っていく様は、何か昔と現代が交錯して一種の幻惑にかられたようでした。(まあ人それぞれ感じ方はあるでしょうけど……)

幸い夕方には大村くんと連絡がとれて、彼の下宿にお世話になることができました。近くの銭湯で木曾路の垢を落とし、ビールで乾杯、大村くんはクラシックをこよなく愛する人で大学では Viola も演奏され、人柄が惚ばれました。名古屋の鈴木さんと大阪の宮崎さんにお礼の電話を入れ、(九州に帰ってからだと高くつくから……アヒヒ) 神戸と福岡の親戚の家へ、明日以降お邪魔できるか打診する。"京の

底冷え"とはあまりにも有名ですが、その夜は信じられないくらい
の熱帯夜で、四畳半の部屋に野郎三人で雑魚寝とくれば、安眠でき
うはずもありません。でも、他の二人よりか僕の方が良く寝ていた
うです

8月13日

お昼から市内半日コースの観光バスで、清水寺↓三十三間堂↓知恩
院↓金閣寺↓東本願寺↓平安神牛を回る。最初、「旗持ったバスガイ
ドの後ろなんか歩けるか。」なんて悪態をついていたのですが、今回
は木曾路の帰りでかりそめのものだったし、便利ではあるというこ
とで、結局二人に従いました。まあ事は経験してみるもので、観光バ
スにしても拝観料は団体料金になるし、ガイドさんの話も案外面白い
とくれば、一概に悪いとばかりは言えないみたいです。

京都駅 23:37 発のブルー・トレインはやぶさで九州への帰路につく。
京都から乗り込んだのは僕の他に田川でガソリンスタンド経営のヤ
さんがかった品のいいおじさんだけ。B寝台の二段ベットで上下とな
り、僕が裸足で乗艇の時に使う健康サンダル(これで京都の一日を通
しました。"医ボ朝長"の下に高須という文字が見え隠れするヤツで
す)を履いているのを見て、自分のバックから靴下を取り出し、これ
をどうぞと言われる。赤の他人からこんなに親切にしてもらっていい
のだろうかと思いつつ、もしかしたらアチラの気があって下に寝てい
る僕を襲ってきたはしないだろうかという心配もありましたが、素直に
受け取りました。幸い何事もなく夜は明け、いけない子になりそこね
ました、残念です。うそ。

8月14日

昨夜のおじさんから起こされ朝食に誘われる。朝から洋定食とビールを御馳走になりました。やくざとは元々花札の八九三から来た言葉だそうです。小倉でおりられたおじさんに、靴下と朝食の御礼を言ってお別れ、博多に着きました。

早速親戚の家を訪ね、従兄弟のクルマで福岡市内をドライブし、午後八時過ぎには嬉野に帰ってきました。田中先輩、富永小夜子さん、患妹の葉子を誘って、大正屋の beer garden で旅行の打上げも兼ねて乾杯!! (マイナーですみません)

以上が浜松から出発して郷里の嬉野に到着するまでの七日間の旅の行程でした。文章として内容的に理解しにくいところもあるかもしれませんが。そこは皆さんの想像力でうまく酌んで欲しいと思います。尚、活字として表すには delicacy に欠けるといった「隠された事実」も多々ありますので、興味のあられる方は遠慮なくお尋ね下さい。

(気を使うのは嫌いなわけじゃないんだよ……)

今回旅をして感じたことをまとめて最後にしたいと思います。たった一度だけ旅をしたからといって皆さんに旅を勧めるのは痴がましい話ですが、旅の魅力にとりつかれた者の為せる業と思って、許して下さい。

①土地の人と話をする。

話しかけるならオバアチャンがいい。土地のことなら何でも知っていて、話好きだ。若い女の子の尻を追っかけ回すのだった。長崎でもできる。(決して誰かさんへのあてつけではありません)

②安い旅行を心掛ける。

汚くなる必要はないが、学生のうちは謙虚な姿勢で安い旅行をしたい。

「夏はキャンプをすると楽しい思い出がたくさんできるものです。アンノン族的な旅行は町にいてもできる生活を場所を変えただけにすぎないので楽しさが違います。そんな旅行なら社会人になって会社の旅行でもできるのだからわざわざ学生の時にやる必要はない。余り金をかけない歩くこと中心のきたない旅行をすべきだと思います。」(宮崎さんから僕宛に来た手紙から拝借)

③団体旅行を憎め。

時刻表、Guide Book など必要なものを自分で揃え、計画を立てる。たとえ計画倒れになって行き当たりばったりになったってかまわない。旅しているという充実感がちがうと思う。

④資料を集める。

悲しいかな、人間の記憶というものは時が経つにつれ次第に薄れていくものである。荷物がかさばるような土産品を買うより、訪ねた場所のパンフレットをとっておくほうが賢いと思われる。(土産品は最小限度のものにしたい) 駅や名所では必ずといっていいほど、記念スタンプが用意してあります。帰った後で写真と一緒に整理すると楽しいアルバムができますと思います。(佐橋・鈴木さん談)

旅とはある意味で「闘い」とも呼べるかもしれません。受身の観光では見えるものも見えないと思います。これからも機会さえあつたら、

自分の目で見、自分のハダで感じる、そんな旅をしたいと思ひます。
(カッコイイコトを言つてすみません)

今回の旅では、そのほとんどのイニシヤティブを僕がとらせていたわけですが、行きとどかなかつたことが多々あつたかと思われまふ。同行してくれた岡野くんに対して深く感謝の意を表したいと思ひます。

戸田遠征記

学 I 中 島 寅 彦

昨年の夏、わが長崎大学医学部 A クルーは、浜松における西医体に出場したのち、そのまま埼玉県戸田オリンピック漕艇場に向かい、二週間の合宿の後、全日本大学選手権に出場させて頂きました。インカレ出場において何かと御尽力下さつた青木先生、合宿中色々とお世話になり、我々を励まして下さつた田中先生、井上先生をはじめとして、戸田遠征に御協力、御援助下さつた諸先生、諸先輩方に心から感謝いたします。

戸田における全国からの強豪にまじつての合宿中に得た多くのものを、今シーズンからの練習、レースに生かさねばと強く感じております。

以下に私は、浜松を発つて東京に向かつた八月八日から、試合の終わった八月二〇日までの私たちの生活を、日記風に記してみたいと思ひます。

八月八日

まだ日も昇りはじめたばかりの朝六時頃、浜松駅前の芝生の上で目

が覚める。腕は左右とも、ヤブ蚊に刺されたためか赤く瘍れている。あたりを見廻すと、あつちのベンチに一人、こつちの芝生に一人というふうには、ボート部員が横たわつてゐる。

昨晚、浜松医大の催してくれたレセプションの後浜松市内の繁華街で騒ぎまくつた我々は、泊まる場所もなかつたため、駅前で浮浪者に混じつて一夜を過ごしたのであつた。

九時頃のこだま号で A クルーの五人にキャプテンの日高さんを加えた計六人は、これから各地を旅行してまわるという他のボート部員に見送られて浜松駅を発ち、一路戸田へと向かつた。昨日試合を終えたばかりというのに、これからまだ二週間も合宿生活をせねばならぬことを考えると気も重くなる。他の五人も心なしか沈んでみえた。

東京駅から京浜東北線に乗り換え、赤羽駅下車、バスに揺られること約四〇分で我々は、よくテレビの金八先生に出てきた荒川堤防に並んだ形で造られている戸田オリンピックボートコースに到着した。周辺は、東京に対してもつていたイメージとはおよそかけはなれた田舎で、商店街らしきものさえ見あたらぬ。さすがにここは、埼玉県なのだ!!

ひとまず落ちつくために、これから寝泊まりしていく、オリンピックの時に外人選手の為につくられたという共同合宿所に入った。

むわつとした熱風に包まれたその建物の中、薄い壁一枚だけで隔てられた区画がいくつも並んでいて、その区画ごとに各地のクルーが入居しているのである。うさぎ小屋というより、ミツバチ小屋といった感じである。監獄の雑居房を思わせるような鉄製の二段ベッドに音をカタツカタツとたてて回転する扇風機、それに加えてこのむし暑さ、

急に家が恋しくなった。

昼食を近くにあつたロイヤルホストで食べていたとき、突然建物全体が揺れだした。地震だ。あとで聞いたことによれば震度4だったそう
で、天井から吊られた電燈も左右にかなり激しく揺れ動いた。しかし
レストランの中で騒いだのは我々六名だけで、店のウェイトレスや他
の客らは、別に何事もなかったようにそれぞれの仕事をしたりナイフ
を動かしたりしている。関東に地震が多いということは知っていたが、
人々がこうまで地震慣れしているとは思わなかった。

練習は明日から開始するという事にして、夕方からは自由時間だ
った。大介さん、金色さん、それに矢野の三人は元気なもので、それ
ぞれが東京の街に出ても恥かしくないと自負する服装に着換えて、早
速、新宿方面へ遊びに行つてしまった。戸田から新宿や渋谷へ出てゆ
くには、バスに地下鉄を乗り継いで一時間以上かかり、小生はとても
そこまでして、遊びに行きたいとは思わなかった。彼らよりは小生の
ほうがまだ都会に慣れているとみえる。

残つた日高さん、中里さん、それに小生の三人は、ここで暇をつぶ
すのもばからしいので、あたりを散策ついでに川口まで出かけた。川
口駅周辺はかなりの繁華街で、トルコやキャバレーも結構密集してい
る。日高さんは、こういうところにくるとどうも血が騒ぐらしく、中
里さんと小生を喫茶店に待たせて、一万円を手にしてその辺の一軒へ
入つていった。

宿舎へ戻つてしばらくすると皆帰つてきて新宿へ行つた三人も〇ぞ
き喫茶へ行つたと話していた。少し塞ぎ込み気味の一日を過ごした小
生とは違つて、それぞれに東京での第一日目を楽しんできたようだ。

八月九日

| | | |
|-------|----|-------|
| 6:00 | 起床 | ランニング |
| | 乗艇 | |
| 9:00 | 朝食 | |
| 13:00 | 昼食 | |
| | 昼寝 | |
| 16:00 | 起床 | ランニング |
| | 乗艇 | |
| 20:00 | 夕食 | |
| 22:00 | 消灯 | |

また例によつて、起きて漕いで食べて寝る、というおなじみのワン
パターンの生活がはじまつた。練習回数は日に二回で、子々川の合宿
に比べるとまだ楽なのだが、やはり起きて息つく間もなくランニング、
乗艇というのはいやなものだ。食事は朝、昼が弁当屋から届けられる
日替わり弁当で夜は外で食べる。今回の合宿中で一番多く利用したの
は、宿舎から歩いて12〜13分のところにある「おけさ」という定食屋
である。店のおじさんの雰囲気もいいし、何といつても量が多かつた。
その「おけさ」で食事を済ませたあとは、まっすぐ宿舎に帰つてし
まわず、コンビニエンスストアに寄つて雑誌の立ち読みをして涼んで
戻る、というのが日常のお決まりのコースとなつた。戸田滞在中、コ
ンビエンスストアが我々の唯一の憩いの場だったのである。

八月一〇日

今日は東京女子医大におられる井上健一郎先生が我々にごちそうし
て下さるといふことなので、夕方の練習を終えたと新宿へ向かつた。
ちょうど一年生の寺尾・山本の両君が、別に今日を狙つて来たわけ
はなからうが、戸田に我々を励ましにきてくれていたので、彼らを含
めた八人は女子医大に先生をたずねていった。

まだ、そんなに長く戸田に閉じこめられていた訳ではないが、やはり娑婆の空気はうまい。ミニスカートの女の子でもいると、膝から上一〇cmあたりに目が注がれる。人通りもさすが埼玉に比べるケタ違いに多い。

まず夕食をとるために料亭風の店に入ったが、なんとそこは鍋物、ジンギスカン、しゃぶしゃぶ食べ放題という、今まで小生が聞いたこともないような嬉しい店だった。このときとばかりに、みんな腹に詰め込めるだけ詰め込んだつもりだが、井上先生は最新のボート部員は少食になったとおっしゃっていた。

そのあとに入った場所は、長崎ではちょっと行けそうにない感じの、高級な雰囲気のパブであった。店の女の人が二人ほど席まできて、話相手をしたり水割りをつくってくれたりして、我々もカラオケを唄いまくり、東京の夜を満喫した。練習のことなど全く忘れて飲んで唄って、もう十二時。ひそかに終電車に乗り遅れるのでは、と期待していたが、そこはさすがに東京の国電、朝の一時まであるのだ。

試合でくるのではなく、単なる旅行で遊びにくるところとしては、東京は最高の楽境なのである。

- ① Warming up...ペアワーク
NW₁₀₋₂₀ LP₁₀ NW₁₀ LP₂₀
NW₁₀ LP₁₀ P₁₀
- ② A キャッチ練習—チャボリ
(ペア)
B フィニッシュ練習(ペア)
—Finish 10本+No
feather 10本+
Finish強調10本
- ③ OD(オードブル)
ペアでLP
◦strokeペア2分
◦ミドルペア2分
◦Bowペア2分 ◦端ペア2分
- ④ ロング LP 2000 m
- ⑤ スピード練習 15本のセット
- ⑥ スピード持久力
A 泡あけセット
P10+NW10+P30+
NW30+P50+NW30
+P70

- B 500セット × 6
C 1000m セット× 3
D 300 m セット×10
- ⑦ スタート練習
 - ⑧ スタート付 2000m

朝練習 ①②③④⑦

午後練習

①②③⑦〔⑤⑥〕

〔 〕内は選択

⑥についてはA~Dより1つ

八月二二日

この戸田オリンピックボートコースは、二十年前の東京オリンピックの際作られたものだが、現在はコースに沿ってさまざまな大学、会社が所有する艇庫、合宿所がひしめきあっていて、日本のボートのメッカともいうべきところである。インカレに全日本選手権をあと十日足らずに控えた今頃は当然どこのクルーも合宿をしており、練習時間もあまり暑くない早朝と夕方に集中してくる。エイト、フォフをはじめとしてシングルスカル、ダブルスカル、舵手付きペアなど、一〇〇杯以上の艇が一斉に一つの水路上にでて練習するのだから、その活気というと筆舌に尽くし難いほどである。

事故がよく起こらぬものだと感心していたが、実際は結構あるそう。舵手のいない、スカルに一番多いようで、我々にも幾度となく突っ込んできた。

戸田のクルーは皆、練習後陸に上がると円陣を組んでその日の反省をすることを忘れない。上艇する前に話し合いをするクルーもいた。

自分たちの漕ぎの技術向上のための彼らのひたむきな態度に我々も学ぶところが多いのではなからうか。

八月一三日

戸田にきてからはじめての休養日だ。午前中、艇の整備などをして過ごしていると、先日結婚されたばかりの田中精一先生が激励に来て下さった。長崎からはるかな、戸田の地でボートの先輩に会うというのは、まさに地獄で仏に会うようなもので、OBの有難さをつくづく感じた。

八月一四日

一日ぐらい雨が降っても良さそうなものだが、一向に降る気配さえ見せない。共同合宿所には風呂はなく、みんな練習からあがってくる。水シャワーを浴びる。シャワー室は五人くらいしか入れぬ手狭なものだが、汗をかいた後の水シャワーもまた格別である。小生は個人的にシャワーが好きだから、日に五度も六度もシャワーにかかっていた。食事後、練習までの時間で、寝ている時間以外はたいいベッドの上で、近くの古本屋から買って来た雑誌を読んでいた。こんな、女つきのない合宿中に見る雑誌といえは、必然的に種類は限られてくる。我々の部屋（部屋というよりは囲い）には大きな窓があり、その窓の外をよく人が通るのだが、みんなチラッと我々の部屋を覗いて行っているようだった。

きょうの午後もいつも通り、雑誌グラフィアを眺めていると突然、窓から韓国人選手の顔がとびだしてきた。彼らはオックスフォード盾レガッタに出るために来日しているのだが、その真黒に日焼けした顔は、少しも笑ったり挨拶らしきこともせず、ただ一言、たどたどしい日本

語で、「ホン、カシテクダサーイ」と言った。無気味で恐ろしいくらいに形相だったので、我々も素早く

二、三冊かき集めて手渡すと、礼の一言ものべずに立ち去った。

後日、ちゃんと雑誌は返してくれたが、ああいう鋭い顔つきの人たちがどういった顔をして低俗な日本の雑誌を見ていたのか、知りたいものだ。

八月一六日

試合まであとわずかと迫ってきたというのに、漕ぎが未だに揃わない。子々川での夏合宿の頃は絶対調でつたのに、浜松に行ってから調子を崩して、ここまで尾をひいている。練習に出てもいまいちノルマをこなすだけの、張りのない上艇がつづく。中里さんに色々細かい注意を受けるのだが、どうしてうまくいかないのかわからず、ストレスがたまるばかりでクルーの雰囲気もよくない。幸い、明日は休養日なのでそれで気分転換になればよいのだが。

休みの前の夜というのはどことなく心がウキウキする。小生と矢野は、夕食にちよつと奮発してロイヤルホストでランチを食べ、そのあと銭湯へ出かけた。久し振りの風呂で筋肉の疲れをほぐしたあと、缶ビールを飲みながら夕涼み。戸田での生活にも、やつと慣れてきたような感じだ。

八月一七日

待ちに待った休みの日。朝十時頃から皆、酒落込んで都心へ向かった。高島平から地下鉄に乗って、まず最初に金色さんが降り、次の駅で矢野が、その次で中里さんに大介さん、というふうにそれぞれが単

独に首都の散策に出かけていった。最後に日高さんと小生が残っていたのだが、この二人は結局きょう一日の行動を共にすることとなる。

日高さんは以前にも何回か東京には来ているらしく、またそれに加えて持ち前の方向判断能力(?)を生かして、どの地下鉄に乗ればどこへ行けるということをよく理解している。二人はまず渋谷で食事をしてそのあとプラネタリウムに入った。小生は別に興味なかったのだが、日高さんの執拗なまでの意見に屈してしまったのだ。入って見ると客は親子連れかアベックばかりで男二人で来ているような輩はまずいない。やっぱりやめとけばよかった。

東京に来たからにはやはり新宿、原宿は見とかねば、ということと公園通り経由で歩いて原宿の竹下通りへ向かった。竹下通り沿いのブティックで何か記念になるものを、と思つてTシャツを買つたのだが、よく考えてみると長崎でも売つていそうな製品だった。歩行者天国の日に来たらしつと面白かつたのであろうが、いま一つイメージとは違つた原宿だった。

その後二人は浅草の浅草寺を見物して、そのまま電気屋街の秋葉原へ足をのびした。見渡す限り電気専門店が立ち並んでいて、もう日は落ちていたにもかかわらずネオンで真昼のような明るさだった。今回の戸田合宿には誰もラジカセなどを持って来てなかつたので、皆音に飢えているくらいがある。小生にしても、また日高さんにしてもそうであつて、ある店の店先に並べられたラジカセの山を眺めていた。当然、店員が寄つて来てあれこれと薦め、おまけに日高さんまで小生に「これはいいぞ」「買え」と言ひだした。その時は、ほんとうにいい買い物だと思つていたし、店員と日高さんの板ばさみに耐えられなく

なつて結構買つてしまった。このラジカセ、合宿中は毎日よく使つていたが、今ではというと押入れの中で埃をかぶつている。

この日はこのあと上野のアメ横をぶらついて戻つたが、一日で使つた金は一カ月の食費に匹敵する額だった。

八月一九日

いよいよ試合まであと一日を残すのみ。練習も調整程度で上がつてきたが、決している漕ぎをしているとはいへぬ。果たしてレースで二千米も体力がもつたらうか。

緊張と不安の中、皆アルコールの力を借りて早めに就寝。

八月二〇日

天気は晴れ。今夏の総決算ともいふべきインカレの日がついにやってきたのだ。

朝五時半に起床して、ランニング、乗艇をして軽く汗を流した。試合があるのは十時。朝食をとらねばならないのだが固形物は、緊張のためか全くのどを通らない。仕方ないので流動タイプの栄養食をガバガバと飲んだ。

二千米というのは実に長いもので、スタートからゴール地点の旗がやつとかすんで見えるくらいである。ゴール周辺の観客席には、日が昇るにつれて人が集まつて来た。東大や早大の応援団、チャガールも混じつおり、さすがに日本一を競う試合の華かさが感じられる。

十時に第一次予選。(詳しい試合の結果は別記を参照されたし)日大、慶応に大きく差はつけられたものの五杯中三位。スタートから漕ぎも結構そろつていて、陸から見えていた日高さん、寺尾も、決して他校と見劣りしない漕ぎだったと誉めてくれた。でもあと一回、二千米

漕がねばならない。

敗復―三時。六位であったとはいえ、あの東大クルーについていたこともあって、悔いの残る試合ではなかった。

陸に艇をあげ、整理体操をして最後の挨拶。どこからともなく喜び、嬉しさの気持ちが溢れてくる。明日からは早起きする必要もないのだ。身体は疲労は最高度に達していたが、その辺を走り廻って万歳と叫びたいくらいだ。他のみんなもきつと同じような気持ちに違いない。

夕方からは、応援にきてくれていた寺尾、一年生の中条さんを含めた八人で池袋で打ち上げをした。ビアガーデン、パブ、〇ぞき喫茶、等々ありとあらゆる店をはしごし、たまった欲求を発散させる。

東京に来てから十二日め、長崎を発ってから実に十六日めである。合宿中、きついことだらけであったとはいえ、今思えばまたそれも懐かしい。みな、それぞれに長かった夏を振り返りながら、池袋の夜は更けていった。

ボート部に入って

教II 天野秀明

私が生まれ初めて入った運動部、それがボート部である。中学、高校と片道一時間の電車通学をしていた為、とても運動と勉強を両立させることができないと考えていた私は、運動部に対して、むしろ否定的な気持ちを強くいだいていた。しかし、大学へ入学して一応の第一目標を達成したことによって、今度は体をガッチリと鍛えて見ようと思いいボート部に入部することになったのである。それまで全く運動し

たことがなかったのだから、入部したてのころは毎日毎日がしんどくてしんどくてたまらなかった。懸垂三回腹筋三回背筋三回ランニングは一番遅いというのが当初の私の体力であった。とにかく手をぬかず一所懸命にやること、先輩がたについていくことだけを考えて、ガムシヤラにやってきたこの一年間は、決して楽しいことばかりではなかったが、充実したものであったと満足している。今後引退するまでボートを続けて行くことになりましたが、目標は西医体でメダルを取ることです。自分がこれだけやったのだという証しをたてるためにもメダルを取ることが大きな目標なのです。今までどうりコツコツと努力していきたいと思えます。

自動二輪のすすめ

教II 白藤智之

みなさん知っての通り長崎は、道も狭く坂の非常に多い町です。そこで、最もすすめられる交通機関は自動二輪でしょう。

僕は、昨年の八月末に自動車学校で中型免許を取得しました。かうこと約二週間、お金が約八万と結構めんどくさいものです。しかし、車に比べれば労力・安さとも比較になりません。まあ、免許取得の話はこれくらいにして、本題のバイクについて話しましょう。

バイクは、主なもので50CC・125CC・250CC・400CC、そしてナハン(750CC)とあります。

50CCは原付とよばれているもので簡単な手続きですぐ乗れます。燃費もよく、経済性のみを追求すれば最もよいでしょう。しかし反面、

車体が軽く不安定なわりにスピードが出るため事故率が高く危険です。50 C C の中では、ヤマハ R Z 50、ホンダ M B 5・M B X 50、スズキ R G P 50、等の2サイクルスポーツタイプが、比較的安定性が高いでしょう。しかし、90 Km以上スピードも出ますし、ギアの選択もむずかしく、無茶をすると死にます。これは乗る人の性格によるでしょう。オフロードタイプは、あまり詳しくないので以後も省きます。

125 C C クラスになると小型免許がいります。これは、普通免許をもつていれば取るのは簡単です。任意保険も安くある程度の馬力があるので町中を走るには最も便利です。安定性も操作性も50 C C よりかなりよく、結構遠乗りもできます。しかし、バイク特有の快感、あの加速感、スリル等のものはまだ無理です。

バイクのおもしろさ、経済性を考えると、250 C C クラスが最もよいと思われれます。車種も多く、バイク自体が最もよく改良されているクラスです。

先ほども少し触れましたが、バイクのエンジンには2サイクルと4サイクルの二種類があります。2サイクルは、エンジン一回の回転で一回爆発するもので、構造が簡単で、小型軽量、しかも馬力が出てエンジンも抵抗が少ないため、すぐ高回転になります。反面、低速回転時の馬力は小さくトルクも小さいため坂道ではすぐギアチェンジが必要で、しかも、なんといっても最大の欠点は、燃料を大量に食うことです。4サイクルは、エンジン二回転で一回の爆発するもので、構造が複雑で重くなり2サイクルほど馬力もないし、オイル交換も必要です。しかし、燃費もよく低速回転時の力もあり、初心者には扱い易いバイクです。2サイクルは、主に排気量の少ない物に多く、大きく

なるほど4サイクルになります。

250 C C クラスは、ちょうどこれらが最も入りまじった所で、いろいろなバイクがあります。

2サイクルでは、ヤマハ R Z 250 R・スズキ R G 250 P・ホンダ M U X 250 があります。R G P は最も馬力があり、テクニクさえあれば、最も速いバイクですが、アルミフレームなので転倒した時は悲惨です。しかも走行性がわるく、扱いもむずかしく、エンジンも長持ちしません。M V X は、操作性、こまわりでは最高ですが、馬力が小さく、小型です。このクラスでは R Z R が最もよいでしょう。馬力は R G P より二馬力小さいですが、ほとんど感じることはなく、走行性、安定性ともにまあまあで、新型 Y P V S エンジン搭載で低速回転時でも力があり、普通の人が運転すれば、最も速いでしょう。ただし、大型なので、足つき性がわるく、止まっている時の扱いが大変です。

4サイクルでは、ホンダ V T 250 F、スズキ R G 250 F W、カワサキ G P Z 250 があります。V T は250 C C の中では最も売れているもので、それゆえみんなが持っているという最大の欠点があります。が、小型で足つきもよく、V 型 D O H C 4 バルブ エンジン搭載で、2サイクルほどではないにしても、エンジンもよくまわり、馬力もけっこうあり、性能としては文句なしです。しかし、加速感が馬力のわりにいまいちです。F W は250 C C では唯一の4気筒エンジンで、長持ちし、馬力もけっこうありますが、エンジンの回転がわるく低回転の馬力がなく、走行性は最悪です。外見面で買う人が多いようです。G P Z は、バイクでは唯一のベルトドライブなど、走行性はこのクラスでは最高です。エンジンは V T とくらべると、燃費が格段にいいのをのぞいては取る

ところはありませぬ。おとなしく走るには最高のバイクでしょう。

400 C C・750 C Cクラスでは、もはやバイクではなくマシンと言うべきものです。車並のエンジンをつんで、車体は軽量のため、直線時の加速はものすごいもので、とくに750 C Cはまさに怪物です。一度だけ乗ったことがあります、(中型免許では条件違反なんです)もうマシンにはりついている、という感じの安定感、エンジンの振動、あの加速感、人をとりこにしています。しかし、カーブでは、車重があるためぬけるのが大変おそくなり、峠道などでは、R Z 350 R (俗にナナハンキラーと呼ばれる)の、軽快で俊敏な所には負けます。最近では小型軽量、大馬力のC B X 1750が出て速くなりましたが、ヤマハも近々R Z Y 500というR Zの兄弟を出すので、大型4サイクルもますますみがきをかけねばならないでしょう。

最後にメーカーについてですが、ホンダは歴史も最も長く、4サイクルエンジンにおいては、他のメーカーの群をぬきます。ヤマハはもととレーサー用マシンの開発がさかんでレースでよくつわれる2サイクルエンジンの開発は最もすぐれているでしょう。ヤマハは走り屋、とばし屋むきです。スズキは、デザイン等は多彩です。カワサキは、大きなバイクで、燃費、走りやすさを追求しています。バイクのどこを重視するかによってメーカーを選びましょう。

色々述べてきましたが、何のバイクに乗るにしても、くれぐれも事故をおこさないようにしましょう。スピードの出し過ぎや大型バイクでの事故は、死に直結しますよ。

お好み焼き

教 II 寺 尾 保 信

長崎には「お好み焼き屋」が多い。お好み焼きとタコ焼きは何を隠そう私の大好物である。お好み焼きは関東風、関西風、広島風と三種あり、関西生まれで関東育ちの私にとって、これらのお好み焼きの選択は人生の軌跡と言ってもよい。しかし今では関東でも関西風のお好み焼きが主流となり、私も関西、つまりは大阪風のお好み焼き以外は「お好み焼きにしてお好み焼きにあらず。」と想っていた。

ところがである。昨年一緒にボート部に入った某S君とY君は奇しくも広島出身であった。彼らは「広島のお好み焼きが最高ノ」と信じきっている、あの広島人だったのだ。というわけで私はボート部にゆかりの深い「お好み焼き」についてアレコレ書いてみようと思う。

まず、そのルーツを探ると江戸時代後期の彼岸の仏事に用いたお菓子を集め、屋台では「どんどん焼き」が売られた。その頃大阪では「ちよぼ焼き」なるものがあり、これらはみな子供のおやつだったのである。「お好み焼き」となったのは、関東大震災以後のこと、肉や魚をたくさん入れて浅草などで売られたのが始まりである。

現在では前に記した三種類のお好み焼きがあるが、関東風は生地(小麦粉を水で溶いたもの)の上に具を重ねたもので、関西では生地と具を初めから混ぜるのである。ところが広島では焼きソバを生地の上にのせて焼くというのだから私には理解できない。

偏見をもって言えば、関西風のは、全国的に普及しているという庶民性からしても、やはり一番おいしいのではないだろうか？それに広島のお好み焼きを食べた後に、酒でも飲んで吐いてしまった時、道の上にふやけて拡がるミミズのような焼きソバを見るのは、あまりいい気持ちのするものではない。

まあその問題は百歩譲って「どれもみな、それぞれにおいしい。」として、次にお好み焼きの作り方について書いてみたいと思う。お好み焼きを生かすも殺すも生地作り次第である。手軽に作るには、小麦粉に少々の塩を加え同量の水で溶けば良いのだが、水の代わりにだし汁を使ったり、生地をふくらませるためにベーキングパウダーを加えると、さらにおいしくなるだろう。また山いもをすりおろして加えると軽くて食べやすくなるのだが、多すぎると逆効果になる。ここで大切なのは、こうして作った生地を一時間ほどねかせて、のびをよくすることである。そして、関西風ならキャベツ、卵、豚肉、エビ等好みの具を入れて厚手の鉄板やフライパン、あるいはホットプレートで焼けばでき上がりだが、お好み焼きと言えどソースを忘れてはならない。とんかつソースにケチャップを混ぜた甘口ソース、さらにウスターソースを加えた辛口ソースなどがあるが、マヨネーズや辛子を薄くぬるのもおいしいだろう。あとは紅しょうが、青のり、かつおぶしがあれば完ぺきである。

このように、お好み焼きと言えども簡単に作れるものではないのである。(実際、非常に簡単であるが……)つまり奥が深い。お好み焼きは一日にして成らずなのだ。

結局、関西やら広島やら言っても、お好み焼きはやっぱお好み焼

きなのであるから、よーするに、好きなように食べれば良いのである。自分の食べたいものをぶっ込んで(たとえそれが焼きソバであっても)焼いたら、誰が何と言おうと、そいつは「俺はお好み焼きだぞ！」という顔をしているのである。

ポートを漕ぐ四人がみな、関西のお好み焼きが好きだとは限らない。整調サイドが広島派で、バウサイドが関西派であっても、それぞれの好みを、それぞれが愛せれば食事もうまくなるのではなからうか、とどうやら究極的な結論がむりやり出たようである。今年もがんばります。

大相撲

教II 中村晋

中学一年から高校二年にかけて、僕は大相撲のとりこで、本場所中は夕方の四時からNHKで全取り組みを観るだけでは気が済まず、ニュースセンター9時のスポーツコーナー、大相撲ダイジェストを観て寝、翌朝、新聞のスポーツ欄を見て昨日の興奮を思い出す、という熱中ぶりだった。

中学時代、級友と一回だけ喧嘩をした事があるが、その時でも拳なぞで相手を殴ったりしなかった。殴り損じて相手に隙が出来た時、まず相手の右肩の下あたりに頭をつける。それから右手で相手の前まわし(ベルト)をつかみ、ひきつけて相手の体を起こす。左差しで、相手の右の腕(かいな)を返す。この様に万全の体勢を整えてから僕は池に向かって怒濤のごとく寄っていった。

しかし、あの頃はまだ土俵際の詰が甘かった。本来ならば、土俵際で腰を割り、まわしから手を離して相手の胸を押さなければならぬ。そうすれば、相手は僕のまわしに手が届かず、仮に届いたとしても指先をひっかけられる程度で、僕は相手にうちやられる心配がない。しかしあの時は腰が高く、まわしを握ったままだったので、土俵際でついに相手にまわしを許し、うちやられてしまった。かくして哀れ、中村晋君は池の中へ。

後日談によると、その敗戦がくやしくてたまらなかつた中村山は、某有名高に進学。毎日昼休みになると友達と相撲を取り続け、終わりに攻めてよし、守ってよしの大横綱になったそう。

さて、本を読んだり、テレビを見たりして印象に残った力士を三人紹介したいと思う。

。無敵の双葉山

昭和十年代に活躍した大横綱で、優勝回数十二回、そのうち全勝優勝八回。優勝回数では、あの「巨人・大鵬・卵焼き」の大鵬が記録した三十二回には遠く及ばない。しかし、大鵬が年に六場所あったのに対し、双葉山の活躍した時代はたったの二場所だったから、十二回というのは実に恐ろしい数字である。それに双葉山には昭和十一年一月場所七日目から、昭和十四年一月場所三日目まで続いた不滅の連勝六十九というのがある。二年半も負け無しなのだからすごいと言う他ない。

。アホの柏戸

昭和三十六年から四十四年頃まで活躍した横綱。まわしに手がかかったら、何も考えずにひたすら突進するのみ。勝った時はめっちゃくち

やかっこいいが、負けた時は自分だけ勝手に土俵下に落ちて、よく大けがをした。あほとしか言いようのない相撲だが、その負けっぷりも魅力の一つだったらしい。

小学校六年生の時、相撲大会の小学生の部で見事に五人抜きをやったのけたが、見物人から「あんなにでかい小学生がいるか」といじめられたという暗いエピソードがある。

。座ぶとんと北の湖

昔（僕がよく見ていた頃）の北の湖はアホみたいに強く、東西の人氣力士をつかんで投げ、ちぎっては投げ。それに加えて態度がぶてしかつたので、彼はみんなから嫌われものだった。実際、貴乃花や輪島、若乃花があれだけ人氣があつたのも北の湖がいればこそ、ではないだろうか。とにかく、その嫌われ様は尋常ではなかつた。優勝のかかつた一番で、北の湖が勝つと、客は怒って座ぶとんを投げつけた。そんな事を気にも留めず、勝ち名乗りを受ける北の湖の姿が憎たらしくて仕様がなかつた。逆に、負けたりすると、客は歓喜のあまり思わず座ぶとん投げたもんだつた。座ぶとんが宙を舞う場内。その喧騒の中で、そそくさと仕度部屋へ引き揚げていく北の湖の後姿を見て、ざまあみろと思つたのは僕だけではなかつただろう。しかし、それも昔の話。今年の初場所、北の湖は八勝七敗で引退を囁やかれている。

最後に。相撲取りは図体がでかい故に、か弱い女性と事を致す時はどのようにするのだろうか、と疑問を抱く人も少なくないと思う。やはり一般人と同様、普通に致すらしい。ただ三保ヶ関親方（元増位山）は、初めての時「女の人がつぶれてはいかん」と思い、腕立て伏せを

しながら致してきつかったとの事。一体、何回やったのであろう。

独りよがり

教Ⅱ 山 本 太 郎

下宿に一人いる時には酒でも飲むかと思うこともしばしばであるが、まず財布の軽さに啞然とし次に撫然としやがて悄然となることもしばしばである。そんな時本を読んでみようと思うことがある。くだらない本も多いがなかには人間の本性を剥り出しているものや、美しい風物、人情味あふれる話を書いているものもある。そういうものに当たった時には喜々として、あるいは金縛りにあつたようにその話を耽読することがある。

そこでは普段ぼくたちが無意識に避けている世界や見すごしている世界が躍動しています。

トマス・マンの作品に「トニオ・クレイゲル」という本があります。クレイゲルは友人もなく、いつも一人で詩を書いている少年でしたが、彼は美しい娘インゲに淡い慕情を寄せ、快活な少年ハンスと親友になりたいと願っていました。

ところがハンスは彼の話よりも他の仲間たちとの話を好みました。また彼はインゲの前では戸惑うような少年でした。

クレイゲルは楽しく話し興じる学友たちに憧れながらそうできない自分を知っていたのです。

やがて彼は愛するインゲやハンスとも別れ別な道を歩み始めます。でもそれは彼にとって本当に歩みたい道ではなかったのです。

彼も人々から素直に愛され、仲間たちと楽しく興じたかったです。ぼくにはその繊細な、時にはズタズタに引き裂かれ自分がなくなつてしまふ途方にくれるそんな少年クレイゲルがたまらなく好きだし、たまらなく悲しい存在のように思えてくるのです。

故郷をも捨てたクレイゲルはやがて成人して十三年ぶりに故郷に帰つてきます。そこで彼は偶然ハンスとインゲに再会するのです。

彼の心はかわらぬ美しいインゲと快活なハンスとによって打ち震えます。しかし彼は二人がもはや遠い存在であることをどこかで知っていました。そしてこう言ったのです。

「ぼくは君たちのことを忘れていたのだろうか？ いや決して、インゲ、君のこともハンス、君のことも決して忘れてはいなかった。君らのようになれたらもう一度やり直す。

インゲ、君のような妻をもちそしてハンス、君のような息子をもつことができるなら……。」

もう一度やり直す？ だがそれは何んにもならないだろう、やはりぼくは道に迷うだろうから、世の中につねに道に迷うある種の人間がいるものだから。」

素直なものに対する憧れと、けれども自分はそうなれないというジレンマ、それが右のような叫びとなつたのでしょうか。

そういうトニオがせつなくてやりきれません。スポーツを通じて得られる体験と共に、ある一面異質なものとしての文学にも喜びをみつけたと思うこの頃です。

昔から毒になりこそすれ薬にはならぬと言われつつつけてきた文学ですが、その中にもなにかありそうな気がして……。

ボクの愛した船

教II 吉川公正

ふね。舟または船。ボートは艇と書くのだそう。

この乗物、長崎の離島の人たちほどのものではないけれど、随分と世話になってきた船がある。というのは、福岡の若松といういころに洞海湾という海がある。七〇年前半に社会学科の授業をうけた人には公害の海として記憶されているかもしれない。あの当時はブランクトンも棲めなくて、外国船がこの湾にはいつてくると船体にくっついていくフジツボなんか死んでとれてくれると喜んだとか。

でも、この海は昔、洞の海（くきのうみ）と呼ばれ水深二mほどのいくつか島の浮かぶ、日本昔ばなしの舞台になるようなそれはきれいな海だったそう。しかし八幡製鉄所ができた、その後の六〇年代以降の工場の進出であのコーヒー色の海になってしまったそう。

でも今は、工場の排出規制なんかで、驚くほどきれいになった。サカナもカニもフジツボも棲むようになって磯の香りのする海になってきた。

その海に、二十数年前、若戸大橋という、真っ赤なつり橋が掛けられた。この時にちょうどこの橋の下になるところを往復していた渡船があつて、橋の完成とともに廃止になる予定だった。

しかし、これが廃止にならずにいてくれたわけで、随分と利用させてもらった船なのである。橋よりも、とにかくこの渡船を利用した。それは何故かという運賃がバカ安なのである。

ボクが運賃を払い始めた頃であるから小学生の低学年の頃だったと思うが、確かあの時はバスも渡船も十円だった。つまり大人は二十円だったわけで、それが今ではバスのほうは百三十円にもなっている。しかし、この渡船はなんと、いまだに二十円なのである。

高校の時は、バス・渡船・国鉄と三枚の定期を持って通学していたが、渡船の定期は一ヶ月三百円、三ヶ月七百円だった。今でもそうである。

定期を三枚も持つて、おまけに船を利用した通学は、はつきりいつて大変で三年以上はともやる気はしない。もともと渡船を使わずに近くの駅から直通の国鉄があつたのだが、一時間に一本しかないので学校に間に合うためには早起きをしなければならず、といつても三十分早く起きればよかつたのだがボクには朝の三十分は貴重な眠りの時間だったので、あえて船の道を選んだ。

朝の通勤・通学のラッシュ時に、船を使って通うのは、なかなか面白い。バス・国鉄がせかせかせした朝のラッシュの風景でも、所詮船は船である。間に合うか合わないかとあせってみてもどうしようもないのである。定刻になるか、満員にならないか、けつして船は出ない。しかも、大きな船が港にはいつてこようものなら、じつと通り過ぎるのを待つしかない。乗客はみんな黙つたまま波の音を聞きながら波間に漂うしかないのである。それに、バス、電車のように船は棧橋にすぐには止まらない。このへんで、いつも遅刻が確定的になり、船を選んだのを後悔したり、でもまあ、船を使つての通学というものもなかなか趣があるからと、自分を慰める毎日が続いた。

冬に棧橋で船を待つのも辛かつた。高校の友達から、ポンポン船で

通っているのかと、バカにされるのも辛かったが、あえてボクはこの船に乗って、この船を愛した。

今の時代に逆らったような、エンジンがあるのにもかかわらず速さをまったく気にしないあの態度が好きだ。

夏の夜に船の後ろのデッキで涼んだり、春の穏やかな日に、船が出るまでの間、波が船縁にあたる音を聞きながら、海面をゆるる日の光をながめるのが好きなのである。

この渡船、人力なのに速さを気にするボートとは正反対な船ではあるが、なにか意固地なところが、どちらにもあって、愛すべきふねではないかと思うのは少しかわった考えだろうか。

たった五分間程の乗船ではあるが、ボートの五分間の乗艇とは、ぜんぜん違う。あののんびりムードをぜひみんなも味わってもらいたいとそう思う。

昭和58年度行事結果

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 3月20日 | 58年シーズン開始 |
| 3月23日 | OB会総会(於 銀嶺) |
| 3月20日～4月 5日 | 春 合 宿 |
| 4月29日 | 九州山口医科学生体育大会(於 松浦川 主管・佐賀医科大学) |
| 5月 6日 | 新歓コンパ |
| 5月21・22日 | 九州朝日レガッタ(於 遠賀川) |
| 6月 5日 | 県 漕(於 形上湾) |
| 6月12日～6月18日 | 教養合宿 |
| 7月18日～8月 1日 | 夏 合 宿 |
| 8月6・7日 | 西日本医科学生総合体育大会(於 佐鳴湖 主管・浜松医科大学) |
| 8月 8日～8月19日 | Aクルー 戸田合宿 |
| 8月20日～8月23日 | 全日本学生選手権大会(於 戸田オリンピックコース) |
| 9月17日 | OB報告会 |
| 10月23日 | 宮城杯レガッタ(於 大村) |
| 10月30日 | 熊大対抗戦(於 子々川) |
| 1月15日 | 初 漕 ぎ |
| 1月28日 | 卒業生追出しコンパ |

昭和58年度会計報告

(支 出)

| | | |
|-------------------|-----------|-----------|
| ○試合遠征費(交通費・宿泊費等) | | |
| 九 山 | 6 3,000 | |
| 九州朝日 | 1 8 2,875 | |
| 西 医 体 | 4 5 2,100 | |
| 全 日 本 | 9 1,605 | |
| ○試合エントリー費 | | |
| 九 山 | 1 6,800 | |
| 九州朝日 | 1,000 | |
| 県 漕(含 漕艇協会登録費) | 3 0,000 | |
| 西 医 体 | 2 5,500 | |
| イ ン カ レ | 2,000 | |
| 宮 城 杯 | 4,000 | |
| ○合 宿 費(食費・宿泊費) | | |
| 春 合 宿 | 1 5 5,131 | |
| 6 月 合 宿 | 3 6,379 | |
| 夏 合 宿 | 1 8 0,690 | |
| ○艇 運 送 費 | | |
| 九州朝日 | 8 2,900 | |
| 西医体・全日本 | 1 9 6,940 | |
| ○艇修理・部品代 | | 1 0 6,465 |
| ○ライトエース車検・諸費用・修理費 | | 9 2,650 |
| ○ガソリン代 | | 2 4 4,142 |
| ○卒業記念品・結婚祝い・病気見舞い | | 8 8,920 |
| ○雑 費(通信費等) | | 2 0,893 |
| 小 計 | 2,111,990 | |

(収 入)

| | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|
| ○部員負担金 | | | |
| 部 費 | 3 2 0,500 | | |
| 春 合 宿 | 1 6 5,000 | | |
| 九 山 | 6 7,000 | | |
| 九州朝日 | 1 9 5,000 | | |
| 6 月 合 宿 | 3 7,000 | | |
| 夏合宿・西医体 | 3 3 0,000 | | |
| ○バザーコンパ収入 | | 9 9,280 | |
| ○OB諸氏からの寄付 | | 9 4 8,000 | |
| ○前年度繰り越し金 | | 6 8,421 | |
| 小 計 | 2,230,201 | 合計 | 1 1 8,211円 |

昭和59年度年間計画

| | |
|-------------|------------------|
| 3月22日～4月3日 | 春 合 宿 |
| 4月29日 | 九 山 |
| 6月 上旬 | 強 化 合 宿 |
| 6月 上旬 | 県 漕 (於 形上) |
| 6月 中旬 | 九州朝日レガッタ (於 遠賀川) |
| 7月下旬に約2週間 | 夏 合 宿 |
| 8月 上旬 | 西 医 体 (於 大阪) |
| 8月23日～8月26日 | 全日本大学選手権 |
| 10月 中旬 | 強 化 合 宿 |
| 10月末～11月初 | 熊大対校戦 (於 熊本) |
| " ~ " | 宮 城 杯 (於 大村) |

全日本については未定

(昭和五十五年三月二十二日第五)

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

- 第一条 本会は、長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。
- 第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部内に置く。
- 第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物質的な援助を行ない、あわせて部員の身体
の練成ならびに人格の陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものとする。
- 第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の趣旨に賛同する賛助会員をもって組織する。
- 第五条 本会には左記の役員を置く。

- (1) 会長一名 会長を総理し、本会を代表する。
- (2) 副会長一名 会長を補佐する。
- (3) 顧問若干名 会長の諮問に応じる。
- (4) 総務若干名 会務の運営と会計事務。
- (5) 会計監査一名 会計を監査。

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会において互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員任期は、一年とする。ただし、再任は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第十一条 本会の会費は、一般会員より徴収し、会費額は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。

第十四条 本会には左記の帳簿を備える。

- (1) 会則
- (2) 会員名簿
- (3) 会計簿

会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付 則

この会則は、昭和五十四年四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

琵琶湖周航の歌

小口太郎作詞／作曲

我は海の子 さすらいの 旅にしあれば しみじみと
昇る狭霧や さざ波の
滋賀の都よ いざさらば

松は緑に 砂白き 雄松が里の 処女子は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば 赤い泊火 懐しみ
行方定めぬ 波枕
今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮 古い伝えの 竹生島
仏のみ手に 抱かれて
眠れ処女子 安らげく

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿（昭和58年度）

| | 氏名 | 住 所 | 〒 | 電 話 番 号 | |
|------|--------|----------------------------------|--------|----------|----------|
| 名誉会長 | 青木 義 勇 | 長崎市西山町1-350 | 850 | (21)1874 | 細菌学名誉教授 |
| 会 長 | 村上 文 也 | " 平野町1-25 | 852 | (47)5132 | 開 業 医 |
| 願 問 | 宮城 重 信 | " 築町3-1 | 850 | (23)2494 | 開 業 医 |
| " | 辻 泰 邦 | " 西山町1-370 | 850 | (22)6760 | 第1外科名誉教授 |
| " | 須山 弘 文 | " 横尾町2-4-5 | 852 | (56)1321 | 法医学教授 |
| " | 高 久 功 | " 本尾町4-15 | 852 | (44)4087 | 眼科学教授 |
| " | 尾崎 正 若 | 西彼杵郡長与町高田郷字木場151-25 自由ヶ丘団地16号 | 859-01 | (57)5550 | 第2薬理教授 |
| " | 山口 光 次 | 長崎市昭和町882 | 852 | (44)5272 | 県漕艇協会理事 |
| " | 吉田 恒 雄 | " 矢の平町2-19 | 850 | (25)4979 | 県漕艇協会 |
| 世話人 | 谷川 宗 生 | " 虹ヶ丘町18-15 | 852 | (57)1294 | 長大第3内科 |
| " | 田 川 泰 | 西彼杵郡長与町嬉里郷98-12 | 859-06 | (87)1391 | 長大第1外科 |
| " | 難波 裕 幸 | 長崎市平和町11-5 戸田ビル408 | 852 | (44)6060 | 長大精神科 |

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿 (アイウエオ順)

| 氏名 | 住 所 | 〒 | 電 話 番 号 | | 卒業年次 |
|---------|--------------|-----|------------------|--------------|------|
| 青 木 義 勇 | 長崎市西山町1-350 | 850 | (21)1874 | 長大細菌学名誉教授 | S6 |
| 井 上 満 治 | " 岩屋町511 | 852 | (56)2711 | 開 業 | S19 |
| 岡 本 英 雄 | 島原市湊道町7024 | 855 | 09576 (2)2452 | " | S7 |
| 片伯部 貢 | 長崎市本原3 | 852 | (44)3043 | " | S17 |
| 片 峰 大 助 | " 愛宕町3丁目11-7 | 850 | (24)3312 | 長大熱研寄生虫学名誉教授 | S14 |
| 佐 藤 安 雄 | " 本石灰町5-11 | 850 | (22)0321 | 開 業 | 日 大 |
| 鈴 谷 悦 堂 | " 緑ヶ丘町1341 | 852 | (46)2052 | " | S19 |
| 城 谷 勝 明 | " 諏訪町6-231 | 850 | (22)6831 | " | S20 |
| 高 木 聡一郎 | " 今博多町379 | 850 | (24)0590 | " | S20 |
| 高 久 功 | " 本尾町4-15 | 852 | (44)4087 | 長大眼科学教授 | 東北大 |
| 田 川 段一郎 | " 白鳥町7-20 | 852 | (44)0966 | 開 業 | S7 |
| 田 中 敏 | " 住吉町3-11 | 852 | (44)1770 | " | S16 |

| 氏名 | 住所 | 〒 | 電話番号 | | 卒業年次 |
|---------|--------------------------------|-----|----------|-------------------------|------|
| 辻 泰 郎 | 長崎市西山町 1-370 | 850 | (22)6760 | 長大第1外科名誉教授 佐世保市立総合病院 | S16 |
| 宮 城 重 信 | " 築町3-1 自宅 万才町3-22 船津ビルF602 | 852 | (23)2494 | 開 業 | T14 |
| 村 上 文 也 | " 平野町1-25 | 852 | (47)5132 | " | S20 |
| 村 田 農 六 | " 平野町22-21 | 852 | (44)2460 | " | S14 |
| 山 口 邦 夫 | " 滑石1-2-6 | 852 | (56)2325 | " | S14 |

長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿

| 氏名 | 卒業年次 | 教室 | 1. 勤務先・勤務先住所 | 2. 現住所 | 3. 帰省先 | 〒 | 電話番号 |
|-------|------|-------|--|--------|--------|-------------------|------------------------------|
| 石橋盟士 | S30 | 大整形外科 | 1. 石橋整形外科病院開業 2. 長崎市中園町22-17 | | | 852 120 580 | 0958(45)6181 |
| 大須賀浩 | S30 | 大小児科 | 1. 大須賀医院開業 2. 長崎市弁天町17 | | | 852 826 825 | 0958(61)3576 |
| 木谷郁博 | S30 | 大1内 | 1. 木谷医院開業 2. 長崎市大浦町8-16 | | | 850 825 | 0958(22)2964 |
| 清水武 | S30 | 大原研生理 | 1. 榛原総合病院 2. 静岡県榛原郡榛原町細江3721-1 | | | 421-01 | 05482(2)2131 |
| 星野行弘 | S30 | 大内大科 | 1. 星野医院開業 2. 長崎市浪之平町 | | | 850 | 0958(22)8702 |
| 長西靖 | S46 | 大長耳鼻科 | 1. 広島鉄道病院 2. | | | 730 | 0822(61)2251 |
| 冬野誠三 | S47 | 大九内 | 1. 福岡日赤病院 2. 福岡市中央区築院2-11-28 築院パークホームズ703号 | | | 810 | 092(741)8966 |
| 松本恵一良 | S48 | | 1. 浜寺中央病院 2. 高崎市東羽衣4丁目5-4 | | | 592 | 0722(63)2121 0722(64)8828 |

| 氏名 | 卒業年次 | 教室 | 勤務先・勤務先住所 | 現住所 | 帰省先 | 〒 | 電話番号 |
|---------|-------|-------------|--|-----|-----|------------------------|--|
| 峰 雅 宣 | S 4 8 | 大 1内 | 1. 長大附属病院 長崎市坂本町 7 2. 長崎市柳谷町 4—1 3 | | | 8 5 2 8 5 2 | 0 9 5 8 (4 7) 2 1 1 1 0 9 5 8 (4 4) 7 0 3 1 |
| 朝 戸 末 男 | S 4 9 | | 1. 朝 戸 病 院 2. 鹿児島県大島郡和泊町和泊 1 4 | | | 8 9 1—9 1 8 9 1—9 1 | 0 9 9 7 9 (2) 1 1 3 1 0 9 9 7 9 (2) 2 2 8 0 |
| 内 田 隆 寿 | S 4 9 | 大 2外 | 1. 奈 留 病 院 南松浦郡奈留町 2. 長崎市坂本町 1 6 0 | | | 8 5 3—2 2 8 5 2 | 0 9 5 9 6 (4) 2 0 1 4 0 9 5 8 (4 6) 0 1 5 5 |
| 瀬 戸 信 二 | S 4 9 | 大 3内 | 1. 米 国 留 学 2. 長崎市宝町 6—1 8 別館ビル 4 0 1 | | | 8 5 2 | 0 9 5 8 (4 7) 2 1 1 1 |
| 早 田 篤 | S 4 9 | 大 小 児 科 | 1. 長大附属病院 長崎市坂本町 7 2. 長崎市油木町 9—6 | | | 8 5 2 8 5 2 | 0 9 5 8 (4 7) 2 1 1 1 0 9 5 8 (4 7) 6 2 8 1 |
| 田 川 泰 | S 4 9 | 大 1外 | 1. 長大附属病院 長崎市坂本町 7 2. 西彼杵郡長与町嬉里郷 9 8—1 2 | | | 8 5 2 8 5 9—0 6 | 0 9 5 8 (2 1) 1 1 8 1 0 9 5 8 (8 7) 1 3 9 1 |
| 富 海 五 郎 | S 4 9 | 大 愛 媛 精 神 科 | 1. 松山精神病院 2. 松山市東野町 1—6—1 5 3. 下関市山ノ田中央町 | | | 7 9 0 7 5 0 | 0 8 9 9 (2 2) 3 2 1 1 0 8 9 9 (2 2) 7 3 2 9 |
| 中 野 文 耕 | S 4 9 | 大 2外 | 1. 玉之浦国保療養所 長崎県南松浦郡玉之浦町玉之浦 5 2 1 | | | 8 5 3—0 4 | 0 9 5 9 8 (7) 2 2 4 1 |

| | | | | | |
|------|-----|-----------------------|--|------------------|------------------------------|
| 丹羽正美 | S49 | 長 2 薬理 | 1. 米 国 留 学 2. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4 | 080-08 859-06 | 0958(83)5871 |
| 馬渡一雄 | S49 | 長 大 3内 | 1. 高橋病院 諫早市天満町274 2. 長崎市大手町407-24 | 854 850 | 09572(2)0370 0958(48)1194 |
| 桜井一枝 | S49 | | 1. 国立福山病院 2. 福山市木之庄町255-1 ヌゾノ木之庄2-2 | 720 | 0849(22)0001 |
| 石川治 | S51 | | 1. 岡山大学第2外科教室 2. 岡山市鹿田町1-8-10 三信ビル305号 | 700 | 0862(25)4908 |
| 川口昭男 | S51 | 長 大 1外 | 1. 長崎大学第1外科 長崎市坂本町7 2. 長崎市中園町15-15 | 852 852 | 0958(47)2111 0958(47)5529 |
| 神田源太 | S51 | 長 大 皮フ科 | 1. 長崎大学皮膚科 長崎市坂本町7 2. 長崎市片淵町1-12-7 | 850 | 0958(22)7051 |
| 田中精一 | S51 | 東京女子医 大消化器セ ンター | 1. 東京女子医大消化器センター 中山記念病院 新宿区谷河田町 2. 八王寺市初沢町1227-4 | 160 | 0426(26)5111 03(353)8111 |
| 堤健二 | S51 | 長 大 脳外科 | 1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市岩川町10-15 光和ハイッ | 852 852 | 0958(47)2111 0958(46)8093 |

39

42

59

| 氏名 | 卒業年次 | 教室 | 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 〒 | 電話番号 |
|-------|------|-----------------------|---|---------------|---|
| 出口正己 | S53 | 大 形成外科 長 | 1. 北九州市門司区中20-11-7 2. 3. | 800 | 093(381)4624 |
| 土居 浩 | S53 | 大 小児科 長 | 1. 長大小児科 2. 諫早市中尾町1-47 3. 愛媛県宇和島市本町追手1-2-8 | 798 | 09572(6)4240 09572(6)4240 089964(2)1346 |
| 井上健一郎 | S54 | 大 2内 長 | 1. 東京都立墨東病院 2. 新宿区市ヶ谷薬王寺町3-30 牛込パーク302 3. 長崎市岩屋町511 | 135 852 | 03(351)1577 0958(56)2711 |
| 江口圭介 | S54 | 大 3内 長 | 1. 佐世保労災病院 2. 3. 佐世保市常盤町5-8 | 857 | 0956(22)4708 |
| 吉良満夫 | S54 | 大 2外 長 | 1. 長大附属病院 2. 3. | 190-12 | 0425(61)1221 |
| 小村三代治 | S54 | 大 小児科 大 小児科 神 戸 | 1. 神戸市国立神戸病院 2. 神戸市須磨区国立神戸病院公務員宿舎RC2-233 3. 鹿児島県会於郡財部町南俣11211-3 | 668 899-41 | 078(794)0966 09867(2)2355 |
| 成松元治 | S54 | 大 1外 長 | 1. 北九州市立八幡病院 2. 3. 佐賀市長瀬町6-24 | 849-01 840 | 093(662)6565 0952(22)6844 |
| 水谷明正 | S54 | 大 2外 長 | 1. 長大附属病院 2. 3. | 680-06 | 08588(4)2252 |

70

60

70

| | | | | | |
|-------|-----|---|---|-------------------|--|
| 小倉 猛 | S55 | 長 大 形成外科 | 1. 愛媛県立中央病院形成 2. 松山市和泉町202-1 コーポ和泉201号 3. 青森県津軽郡今別町大字某月44 | 790 030-16 | 0899(47)1111 01743(6)2355 |
| 谷川 宗生 | S55 | 長 大 3内 | 1. 井上病院 2. 長崎市虹ヶ丘町18-15 3. | 852 | 0958(57)1294 0828(48)1011 |
| 難波 裕幸 | S55 | 長 大 精神科 | 1. 北九州市民八幡病院 2. 3. 神奈川県箱根町大平台395 | 250-04 | 0460(2)2562 |
| 前原 洋二 | S55 | 大村国立 病院 整形外科 | 1. 国立長崎中央病院 2. 大村市久原郷1001-2市営久原住宅キ棟第3号 3. 鹿児島県薩摩郡薩摩町永野2554-1 | 856 895-23 | 09575(2)3121 09575(3)9027 09965(8)0633 |
| 村山 晋 | S55 | 三 大 重 大 内科 | 1. 三重県上野市四十九町831 上野総合市民病院内科 2. 三重県上野市茅が町2671-2 エビスコーポ 202号 3. 三重県伊勢市勢田町917-63 | 518 518 516 | 0595(24)1111 0595(21)5034 0596(25)3722 |
| 山近 史郎 | S56 | 長 大 3内 | 1. 多良見成人病センター 2. 長崎市滑石3-51-9 3. " | 852 | 0958(57)4360 |
| 倉富 彰秀 | S57 | 健 和 会 長崎市平和町12-4 山里ビル601 佐賀県神埼郡神埼町大字的1495-1 | 1. 健 和 会 2. 長崎市平和町12-4 山里ビル601 3. 佐賀県神埼郡神埼町大字的1495-1 | 852 842-01 | 0958(47)6647 09525(2)3800 |
| 岡田 代吉 | S57 | 嬉野国立病院 長崎市坂本町576 長崎県東彼杵町千綿宿1067 | 1. 嬉野国立病院 2. 長崎市坂本町576 3. 長崎県東彼杵町千綿宿1067 | 852 859-39 | 0958(49)0321 09574(7)0020 |
| 末永 俊郎 | S57 | 九 大 産婦人科 | 1. 福岡市馬出1-2-23 第一岡部ビル806号 2. 福岡県北九州市門司区鳴竹1-14-16 3. | 812 801 | 092(651)9189 093(321)時2453 |

| 氏名 | 卒業年次 | 教室 | 勤務先・勤務先住所 | 現住所 | 帰省先 | 〒 | 電話番号 |
|------|------|------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------|------------------------------|
| 中崎隆行 | S57 | 大外1 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 852 829-03 | 0958(44)7310 09305(6)0325 |
| 永見耕一 | S57 | 大科長眼 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 852 754 | 0958(45)4066 08397(2)2464 |
| 永山雄二 | S57 | 大内1 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 852 857 | 0956(31)4093 |
| 松尾圭一 | S57 | 大内1 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 850 856 | 0958(24)2941 09575(4)3662 |
| 松永伸彦 | S57 | 大科長眼 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 850 " | 0958(78)6680 " |
| 今里雅之 | S58 | | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 852 856 | 0958(44)6050 09575(3)1253 |
| 小林誠博 | S58 | | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 852 803 | 0958(48)1077 093(571)5909 |
| 平野友久 | S58 | | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先 | 850 " | 0958(22)6333 " |

15 〇
16 〇
17 〇
18 〇
19 〇
20 〇
21 〇
22 〇

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

| 学年 | 氏名 | 出身高校 | 現住所 1. 帰省先 2. | 〒 | 電話番号 |
|-----|-------|------|--|---------------|------------------------------|
| 学 4 | 日高 真 | 鶴丸 | 1. 長崎市本尾町338 末吉方 2. 鹿児島県大島郡知名町田水団地12棟199号 | 852 891-92 | 0958(44)6568 09979(3)3901 |
| " | 矢次 登 | 長崎東 | 1. 長崎市本尾町7-3 2. 長崎県北高来郡高来町湯江西溝口名241 | 852 859-01 | 0958(44)7705 095732-3205 |
| 学 3 | 高須 勝也 | 佐世保西 | 1. 長崎市清水町5-13 田口方 2. 北松浦郡江迎町東江迎 | 852 859-61 | 0958(47)9509 09566(5)3417 |
| " | 中里 貴浩 | 青雲 | 1. 長崎市本河内町64 2. 福江市福江町274-5 | 850 853 | 0958(22)6871 09597(2)3223 |
| " | 中山 大介 | 佐世保南 | 1. 長崎市上野町7-18 上野ハイツ303号 2. 佐世保市三川内本町290 | 852 859-31 | 0958(46)2635 0956(30)7033 |
| 学 2 | 青木 幹弘 | 青雲 | 1. 長崎市西山町2丁目209-9 2. 同 | 850 | 0958(21)3967 |
| 学 1 | 石井 久敬 | 筑紫丘 | 1. 長崎市石神町13-31 片岡ビル401 2. 福岡県春日市伯玄町2-52-1 | 852 816 | 0958(47)8542 092(581)8976 |
| " | 岡野 邦彦 | 青雲 | 1. 長崎市坂本町564-1 片瀨方 2. 福岡県北九州市小倉北区井堀1-26-3 | 852 803 | 0958(46)2009 093(571)4149 |

| 学 年 | 氏 名 | 出身高校 | 1. 現 住 所 | 2. 帰 省 先 | 千 | 電 話 番 号 |
|-----|---------|-------|--|---------------------------------|---------------|------------------------------|
| " | 金 色 正 広 | 東 筑 | 1. 長崎市平和町18-7 2. 福岡県北九州市八幡西区茶屋ノ原団地38-13 | 1. 深町アパート104 2. 原団地38-13 | 852 807-11 | 0958(44)9360 093(617)3062 |
| " | 朝 長 道 生 | 泰 星 | 1. 長崎市橋口町11-11 2. 佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿乙2189 | 1. 第3仙弘ビル203 2. 大字下宿乙2189 | 852 843-03 | 0958(44)7099 09544(3)2117 |
| " | 中 島 寅 彦 | 修 猷 館 | 1. 長崎市坂本町633 2. 下関市田中町7-13 | 1. 辻田アパート2F 2. 下関市田中町7-13 | 852 750 | 0958(45)0644 0832(22)8533 |
| " | 矢 野 浩 規 | 八 幡 浜 | 1. 長崎市 2. 愛媛県八幡浜市新町5 | 1. 長崎市 2. 愛媛県八幡浜市新町5 | 852 796 | 0958(48)3615 0894(22)2280 |
| 教 2 | 天 野 秀 明 | 金光学園 | 1. 長崎市坂本町564-1 2. 大阪府豊中市小曾根4-27-18 | 1. 坂本アパート3号室 2. タキキ共同ビル405号 | 852 561 | 0958(46)2009 06(336)2721 |
| " | 白 藤 智 之 | 修 道 | 1. 長崎市本尾町229-7 2. 広島市西区庚午中1丁目18-32 | 1. 池田方 2. ビルミ庚午210 | 852 733 | 0958(44)2993 082(272)0252 |
| " | 寺 尾 保 信 | 湘 南 | 1. 長崎市平野町8-8 2. 藤沢市藤沢6188-183 | 1. 本多ハイツ203 2. 藤沢市藤沢6188-183 | 852 251 | 0958(44)2541 0466(81)4131 |
| " | 中 村 晋 | 大 濠 | 1. 長崎市岡町 2. 福岡市東区舞松原1ノ6ノ18 | 1. 長崎市岡町 2. 福岡市東区舞松原1ノ6ノ18 | 852 | 0958(44)2110 092(661)4367 |
| " | 山 本 太 郎 | 竹 原 | 1. 長崎市 2. 広島県竹原市忠海町3609-79 | 1. 長崎市 2. 広島県竹原市忠海町3609-79 | 729-23 | 08462(6)1868 |

編集後記

「漕魂」第9号もどうか出来上りました。

部長の高久先生をはじめ、昨年よりOB会々長の役をお引受け頂いています村上先生、めでたく開講10周年並びに環曆を迎えられました第二薬理の尾崎先生には、お忙しい中御寄稿頂き本当にありがとうございました。

昨年七月、丹羽正美先生が約一年の予定で米国留学へ出発され、現在御活躍とのことです。

昨年五月、今年御卒業の今里雅之先輩が御結婚されました。

長年「アカッコ」の名で親しまれてきた部車ライトエースの老朽化にともない新しく51年もののタウンエースを買いました。

名義変更その他に関し、田川泰先生にお手数をおかけいたしました。

本誌刊行にあたり御援助して頂いた会社は次のとおりです。

(台) 東七郎商店

やきとり 樹

伊東薬品株式会社

(株) エーザイ

(株) 九 薬

三栄長崎販売株式会社

三共株式会社

三和化学薬品株式会社

第一製薬株式会社

大栄堂器械店

武田薬品工業株式会社

田辺製薬株式会社

中外製薬株式会社

(株) 重陽堂

(株) 津村順天堂

東京マイコンセンター

トヨタビスタ長崎株式会社

長崎県家庭教師センター

藤村薬品株式会社

松島建設株式会社

山下医科器械株式会社

(株) 宮崎温泉堂商店

(アイウエオ順)

心からお礼申し上げます。

編集責任者 金色正広

健保適用

漢方製剤はツムラ

先進的な役割を果たし続けるツムラ。

漢方製剤が健保適用をうけてから、はや7年。以来、さまざまな曲折を経ながらも、ツムラの医療用漢方製剤は、厚い信頼にささえられて着実な成長を示しております。充実した基礎研究や臨床医学的研究への関心も一段とたかまり、いま、ツムラの漢方製剤は、成人病や老人性の慢性疾患をはじめ、多くの複雑なベクトルを有する疾患の治療に広く活用され、すぐれた成果をおさめています。

ツムラは、この新しいカテゴリーと日常臨床の有機的な調和をめざし、つねに先進的な役割を果たし続けているのです。

漢方を科学する

ツムラ

株式会社 津村順天堂

★ツムラ医療用漢方製剤についてのお問合わせ、および學術資料のご請求は

●本社・医薬事業部：東京都中央区日本橋本町2-1-1 ☎03(243)1311(代) ●札幌☎011(222)3061(代)
●仙台☎0222(63)5393(代) ●東京第1☎03(271)2101(代) ●東京第2☎03(986)0093(代) ●横浜☎045(651)6151(代)
●名古屋☎052(971)4811(代) ●大阪☎06(251)4193(代) ●神戸☎078(332)4193(代) ●広島☎082(293)5911(代)
●高松☎0878(22)8993(代) ●福岡☎092(472)0425(代) ●長崎☎0958(27)5003(代)へどうぞ。
★ツムラ提供の「漢方医学講座」(ラジオたんぱ・毎週金曜日・午後8:10~8:40)が好評放送中です。

胃 癌

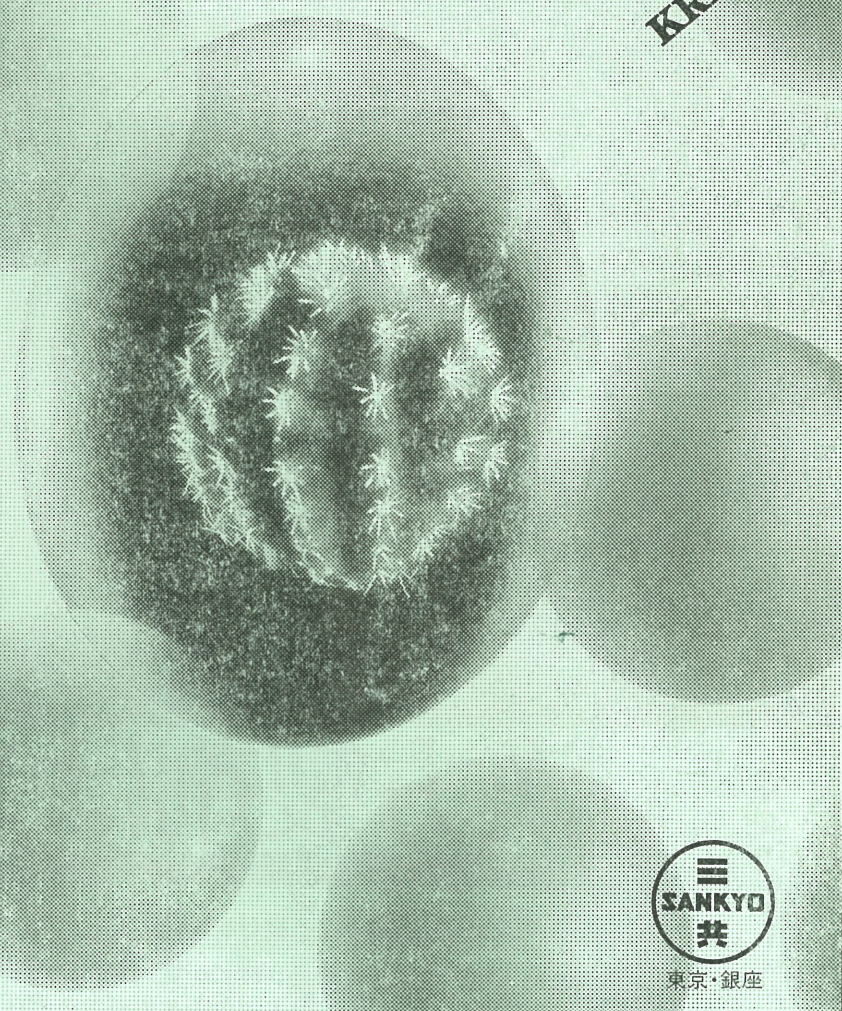
食道癌

結腸癌

直腸癌

乳 癌

肺 癌



東京・銀座

8医-1(83.4)

カワラタケの培養菌糸体から抽出した蛋白多糖体

経口・抗悪性腫瘍剤 PSK

クレスチン[®]

■包装 1g×105包・105g(瓶入り) ■健保適用品^要

用法・用量 通常1日3gを1~3回に分服。
但し症状により適宜増減します。

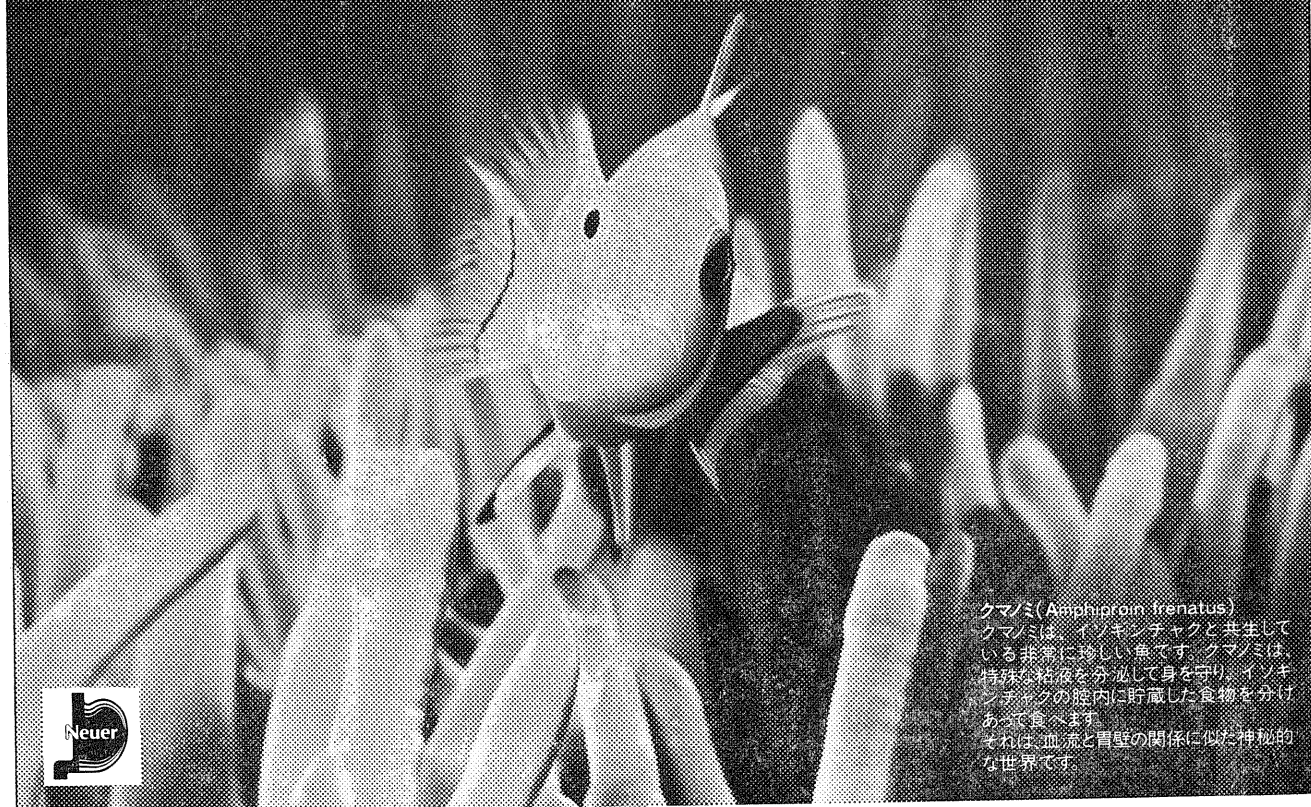
- ①本剤は、主として宿主を介して抗腫瘍作用を発揮するとされています。^{1,7,11)}
- ②担癌状態および抗悪性腫瘍剤投与による宿主の免疫能の低下を阻止、もしくは正常レベルに向って回復させます。^{1,2,9,10,11,12,13,14)}
- ③他抗悪性腫瘍剤、腫瘍切除、放射線照射との併用効果が認められています。^{2,3,4,6,7,8,12,13,14)}
- ④临床上、食欲増進、体重増加等、全身状態の改善が報告されています。^{5,8)}

●使用上の注意

- 副作用 1) 消化器 ときに悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、また、まれに胃部不快感等の症状があらわれることがある。
- 2) 皮 膚 ときに発疹等の症状があらわれることがある。

●引用文献 1)癌と化学療法1.251(1974) 2)癌と化学療法2.13(1975) 3)癌と化学療法3.1047(1976) 4)癌と化学療法2.1063(1975)
5)癌と化学療法3.125(1976) 6)癌と化学療法4.1329(1977) 7)医学のあゆみ91.505(1974) 8)医学のあゆみ91.511(1974) 9)GANN66.365(1975)
10)癌と化学療法6.681(1979) 11)癌と化学療法7.496(1980)[要録] 12)胃と腸14.1617(1979) 13)日本癌治療学会誌15.22(1980) 14)癌と化学療法7.153(1980)

血流は胃壁をまもる...



クマノミ (Amphiprion frenatus)
クマノミは、イソギンチャクと共生している非常に珍しい魚です。クマノミは、特殊な粘液を分泌して身を守り、イソギンチャクの腔内に貯蔵した食物を分けあいで食べます。それは、血流と胃壁の関係に似た神秘的な世界です。

効能・効果追加

胃炎・胃潰瘍の治療に

〔効能・効果〕

- 下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期
- 胃潰瘍

粘膜防御性 胃炎・胃潰瘍治療剤

健保適用

ノイエル[®]

Neuer[®] 一般名: Cetraxate

★ご使用に際しては添付の説明書をお読み下さい。

D 第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号



肉体疲労時の^{ビタミン}VB₁補給に。
アリナミン[®]A

神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こりの緩和、脚気、病中病後・妊娠授乳期のビタミンB₁補給にも。アリナミンA25の主成分はビタミンB₁誘導体(フルスルチアミン)です。このほか、神経や筋肉のはたらきにかかわりの深いビタミンB₆・B₁₂、さらにビタミンB₂も配合しています。なお成人の場合の用量は、1日1~4錠。食後すぐ、水またはお湯で、かまずにご服用ください。●説明書をよく読んで正しくお使いください。●くわしくは医師、薬剤師、薬局、薬店にご相談ください。 武田薬品工業株式会社 〒541 大阪市東区道修町2-27

期待の実力派企業、

充実の5年目へ。

▶トヨタの新時代を展望する
ニューチャンネル

▶チャレンジするビスタ、
急速成長で有力企業へ

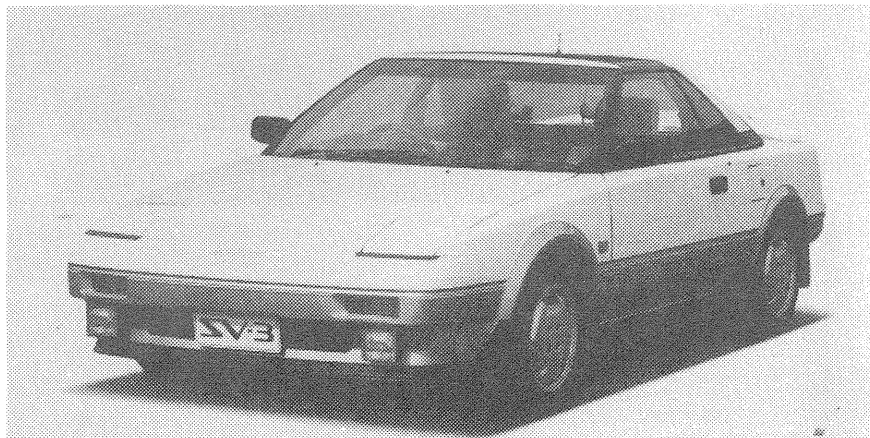
▶業界に新風、
選ぶならビスタ

新しいOA時代を迎えトヨタビスタの

新しいOA時代を迎えトヨタビスタの営業拠点ではコンピューターを駆使したシステムティックで効率的な営業活動へのチャレンジが続けられています。また、サービス部門の充実により、お客様により豊かなカーライフの提案を行っているのもトヨタビスタならではのものといえるでしょう。

もう一つ、トヨタビスタでは「企業は人なり」の考え方を中心に徹底した教育研修を行っています。より多くのスペシャリストの育成こそ企業の将来を左右すると、トヨタビスタは考えているのです。確実な発展を続ける自動車業界に新しい足音を響かせながら、さらに前進するトヨタビスタ。いま将来性で選ぶなら「若さとパワー」のトヨタビスタです。

WHAT'S NEXT?



25回 東京モーターショー参考出品

■ 会社概要

社名 トヨタビスタ長崎株式会社
所在地 長崎市田中町 387 番地 1
代表者 取締役社長 川村 功
設立 昭和54年 8 月
資本金 3 億円
売上高 20 億円
従業員 76 名
主な社歴 昭和54年 8 月「トヨタビスタ店」として第一次内定をうけ、同年同月23日資本金 9,800 万円でトヨタビスタ長崎株式会社を設立。55年 4 月より営業開始、同時に長崎市に中央営業所及び東営業所、佐世保営業所を開設、営業を開始。

取扱い車種

■ クレスタ ■ ビスタ ■ ターセル
■ ハイエース ■ ブリザード

「トヨタの力」と
諸君の「情熱」がつくる
新会社、ビスタ

TOYOTA VISTA

トヨタの先鋭車が結集するカーギャラリー
トヨタビスタ長崎(株)

本社・東営業所 ☎0958(39)1001代

☎851-01 長崎市田中町 387 番地の 1

お客様との信頼関係をモットーに、よりよき明日の教育のために、日夜、努力を重ねております。

募 集



日頃より皆様の御活躍を職員一同深く感謝しております。家庭教師センターでは、熱意ある教師を待っております。



長崎県 **家庭教師センター**
☎44-5916

長崎市若葉町長大正門前(宮崎ビル3F)

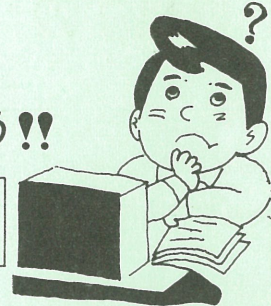
生徒募集

医師を目指す諸君!!

パソコン
を
修得しよう!!

新設

ワープロコース



コース

| | | | |
|-------|-------------|-------|-------|
| 入門コース | 基礎応用 コース | 専修コース | 短期コース |
|-------|-------------|-------|-------|

マイコンのご相談、指導は



東京マイコンセンター

●本部/長崎市大橋町17-3(岩屋橋電停前・池田ビル4F)
☎48-3242

やきとり

いちき



おふくろの味

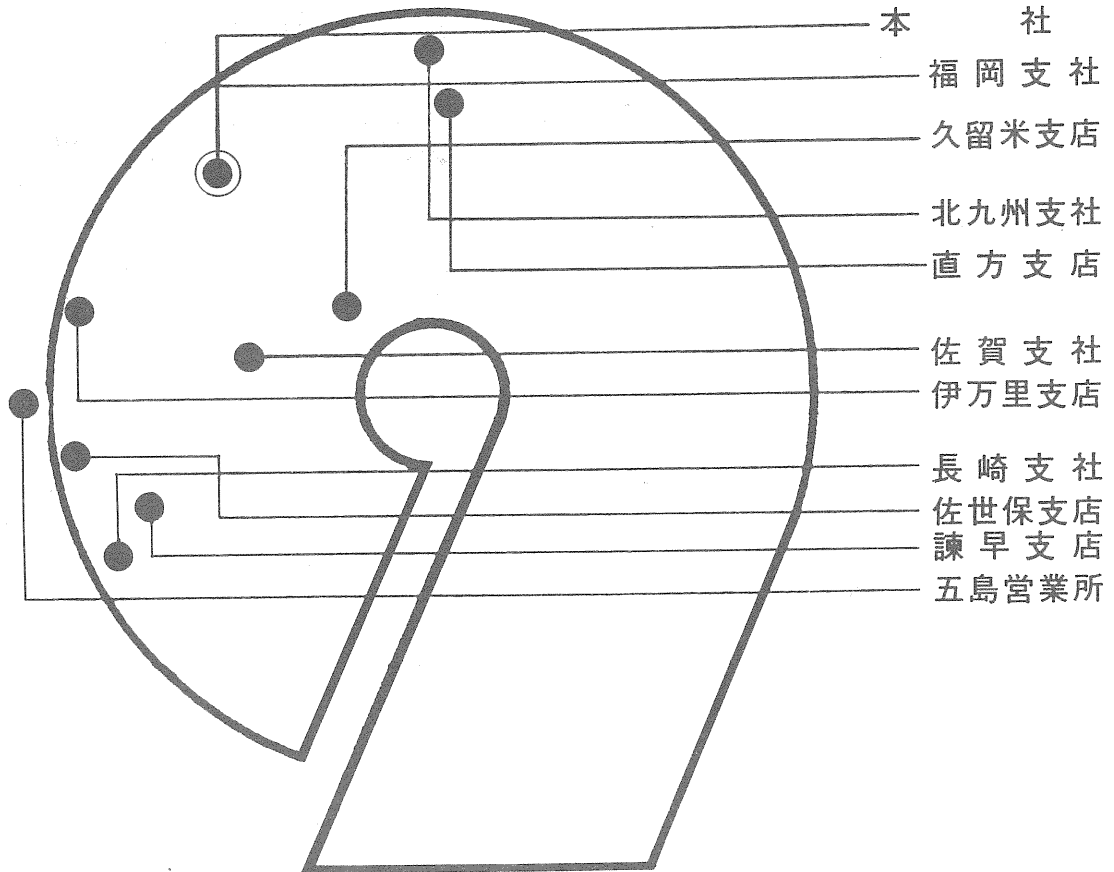
ボリュームたっぷり

樹の日替り定食

かけがえのない生命だから…

(株)丸薬は、優良医薬品・医療機器のトータル
サプライできょうも、地域医療に奉仕しています。

★(株)丸薬サービスエリア



薬品総合卸



株式会社

丸

薬

医科器械・理化学器械・計量器

大栄堂器械店

長崎市桶屋町22番地
電話0958(21)3565番(代表)

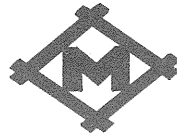
健康に奉仕する

藤村薬品株式会社

本社 長崎市田中町2022番地
TEL (37) 8331

営業所 長崎・佐世保・五島・武雄
浦上・大波止・大村・佐賀

総合建設業



誠実と信頼の

松島建設工業株式会社

建設大臣許可 特58-4277

松島建設工業一級建築士事務所

長崎県知事登録 1-83169

代表取締役社長 野島通彦

〃 常務 山浦秀男

〃 常務 廣瀬守雄

| | | |
|--------|-------------------|----------------|
| 本社 | 長崎市万才町1番1号 | TEL(代) 24-0902 |
| 福岡支店 | 福岡市中央区大濠1丁目6-62-3 | TEL 78-3017 |
| 佐世保営業所 | 佐世保市万津町4番2号 | TEL 24-7321 |
| 大瀬戸営業所 | 西彼杵郡大瀬戸町板浦1427 | TEL 2-0536 |
| 大島営業所 | 西彼杵郡大島町1813 | TEL 2510 |
| 池島営業所 | 西彼杵郡外海町池島256 | TEL 6-0036 |
| 外海営業所 | 西彼杵郡外海町神浦 | TEL 4-0006 |
| 松島営業所 | 西彼杵郡大瀬戸町松島 | TEL 2-0308 |
| 東京事務所 | 東京都中央区日本橋本石町3-4-6 | TEL 241-6527 |
| 時津工作所 | 西彼杵郡時津町浜田郷 | TEL 2-2579 |

医用電子機器販売

三栄長崎販売株式会社

代表取締役 河原秀人

長崎市坂本町4番3号
電話 (0958) 45-5795 代表

誠実＝信頼

地域社会の健康と福祉の向上を願って
てささやかなお手伝いをいたします。

医薬品・医療品
農薬・食品の総合商社
各種臨床検査

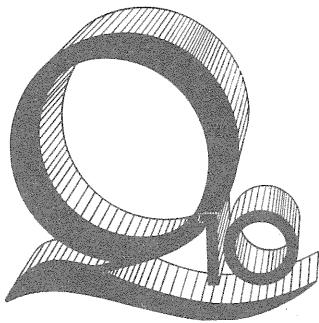
(株)宮崎温仙堂商店

(〒854)
本社 長崎県諫早市東小路町179
電話 09572 (2) 3350(代表)

— 事業所 —

長崎. 道の尾. 浦上. 島原. 佐世保. 大村
五島. 天草. 佐賀. 武雄. 唐津. 熊本. 松橋

虚血による心筋障害を改善し 心機能を高める



代謝性強心剤

ナイキノン[®]錠10mg

■酸素欠乏による心筋組織障害を改善

虚血によって障害された心筋では、高エネルギー化合物のATP・クレアチン燐酸の減少、組織の病的な変性、細胞呼吸の活性低下がみられるが、この変化はナイキノンの投与で防止される。

■アルドステロンによるNa貯留を改善

大量のアルドステロンを負荷した時にみられる尿中へのNa排泄量の減少は、ナイキノンの投与により防止される。

適応症

基礎治療施行中の、軽度及び中等度のうっ血性心不全の下記症状の改善。

浮腫、肺うっ血、肝腫脹及び狭心症状。

包装 100、500(バラ)、1000、3000錠

既発売剤型

錠5mg・糖衣錠10mg・カプセル(5mg)・顆粒(1%)

薬価基準収載

●ご使用に際しては添付文書をご参照下さい。

医療と科学に貢献する



山下医科器械株式会社

| | | | |
|--------|---------|-------------------|---------------------|
| 本社 | 〒857 | 佐世保市湊町3番13号 | 電話(0956)25-2112番(代) |
| 佐世保営業部 | 〒857 | 佐世保市湊町3番13号 | 電話(0956)25-2111番(代) |
| 佐世保特機 | 〒852 | 長崎市浜口町12番19号 | 電話(0958)44-3171番(代) |
| 長崎支店 | 〒852 | 長崎市坂本町4番3号山王ビル | 電話(0958)49-2540番(代) |
| 長崎特機 | 〒840-01 | 佐賀市若宮3丁目90-5 | 電話(0952)30-6433番(代) |
| 佐賀営業所 | 〒812 | 福岡市博多区山王2丁目4-4 | 電話(092)474-2071番(代) |
| 福岡営業所 | 〒856 | 大村市杭出津2丁目51番地の1 | 電話(09575)3-5101番(代) |
| 大村営業所 | 〒830 | 久留米市篠山町179-3 | 電話(0942)39-0848番(代) |
| 久留米営業所 | 〒855 | 島原市栄町8631 | 電話(09576)3-0246番(代) |
| 島原営業所 | 〒803 | 北九州市小倉北区金田2丁目1-32 | 電話(093)582-8071番(代) |
| 北九州営業所 | | | |

常に健康への願いをこめて

医薬品卸問屋
伊東薬品株式会社

本 社 長崎市桶屋町 45 番地 1

〒850 電話 代表(0958)25-5225

営業所 長崎・長崎北・佐世保・諫早
五島(福江)

